医療協力調査団派遣実績表

（昭和41年度～昭和50年度）

61. 9

国 際 協 力 事 業 団
医 療 協 力 部

国際協力事業団

受入月日 '84. 5. 23 | 000
登録No. 07070 | 90.7 MC

まえがき

本資料は、昭和41年4月に現国際協力事業団の前身であった海外技術協力事業団海外事業部（現派遣事業部）内に、新たに医療協力室が新設され、医療協力事業が技術協力事業のなかの独自の一部門として活動を開始して以来、昭和50年度までの医療協力調査団派遣実績を集成したものである。本資料によって調査団派遣実績に関する限り、最小限の情報については知ることができよう。

当初は調査団の名称にも統一性がなく、種類としても視察と予備調査及び実施調査とに限られていたが、現在では名称の統一も図られ、種類も増えている。プロジェクト・ファインディングを趣旨とする事前調査から始まり、実施調査においてプロジェクト実施のためのR／Dを取り交わし、プロジェクトの実施中においては中間的エバリュエーションと、必要ならば協力計画の修正・変更等を協議する計画打合せ調査を行ったり、あるいは派遣専門家及びカウンター・パートに対するブラッシュ・アップのために巡回指導班を派遣し、プロジェクトの終了にあたっては協力の評価並びに将来の協力方針決定に資するためのエバリュエーション調査を実施し、プロジェクトを相手国に移管していくことになる。これに、供与済機材の修理・保守管理技術指導のために派遣される医療機材修理班を加えると計6種類の調査が実施されている訳である。

但し、すべてのプロジェクトがこれら6種類の調査を必らず経るというのではない。事前調査が省略されて開始するプロジェクトもあれば、巡回指導班やエバリュエーション調査が省れるケースもあり、計画打合せ調査を数回行う場合もある。要は、当該国のニーズに適ったプロジェクトを発掘し、可能な限り効率的に実施していくことにあり、このために必要な調査として、現在ではこ

JICA LIBRARY
1015355[9]

れらの6種類の調査が実施されているということである。

調査活動の詳細については、調査団の報告書並びにR／D等の具体的内容については最近当部から発刊された『Record of Discussions 集Ⅰ、Ⅱ』を参照されたい。

本資料が技術協力事業に携わる人々に少しでも役立つことができるならば幸甚である。

昭和51年9月

国際協力事業団

医療協力部長　山本二郎

総括表のための凡例

略　号

予備＝予備調査団

基礎＝基礎調査　　（昭和５０年度以后事前＝事前調査に名称を統一）、

実施＝実施調査

計画＝計画打合せ調査（又は年次協議調査）

巡回＝巡回指導班

評価＝エバリュエーション調査

視察＝視察団

記　号

――――　継続協力

- - - - - - - フォローアップ協力

韓国を例に総括表の見方を説明する。

昭和４３年度には一件の実施調査団が派遣され、寄生虫対策と癌対策に関する実施調査が行なわれた。昭和４６年度では一件の実施調査団がカソリック大学産業医学センターに係る実施調査を行うために派遣され、この調査団が併せて寄生虫対策と癌対策の計画打合せを行っている。このように各プロジェクトの○印を連結する縦線は、それが一件の調査団であることを示し、（　　）が附随的に行なわれた調査の種類を示す。したがって昭和４９年度の場合には、一件の調査団がカソリック大学産業医学センター計画打合せ調査団の名の下に派遣され、この調査団が同時に中央大学校臨床栄養研究センターの基礎（事前）調査を実施したことを示している。

なお、二ケ国以上にまたがる調査団については本表が各国（年度ではない）を単位としている関係上、上述の手続きは踏襲されていない。したがって総括

表から年度内の件数を知ることはできない。重複するからである。
年度毎の件数は本文から知ることができる。

また視察団（特に昭和４１年度の視察団）については、それが特定のプロジェクトに関係あるかの如く表示されているが、国全体に亘った医療事情視察が本来の目的とされていることから、プロジェクトととの係わりについては、むしろ無視されるべきである。むろん、将来そのプロジェクトに何らかの形で継がっているのだが、しかし印のあるプロジェクトだけに継がっているのではない。したがって解釈としては当該国（プロジェクトではない）に派遣された実績がある、というのがより妥当的な解釈になるであろう。

医療協力調査団派遣（除く機材修理班）実績・総括表

（昭和４１年度〜昭和５０年度）

国名	プロジェクト名（調査対象）	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度	昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度		協力の段階（昭和51年4月1日現在）
韓国	寄生虫対策			実施			（計画）						終了
	癌対策							計画	計画				終了
	カソリック医科大学産業医学センター						実施			計画			終了
	中央大学校栄養研究センター									（基礎）	実施 →		継続
フィリピン	コレラ対策	視察	実施	視察	実施		計画	計画		巡回			フォローアップ
	ポリオ対策		予備										終了
	住血吸虫症研究対策							基礎		評価		-----	フォローアップ
	家族計画							基礎		実施			継続
南ベイエトナム	サイゴン病院	予備　実施	予備　予備	実施　視察				計画		巡回			終了
	チョーライ病院												終了
	新チョーライ病院								基礎	実施			中止（49年4月の政変による）
ラオス	ルアンプラバン病院												終了
	タゴン医療センター	○視察					実施			評価			終了
	パンスアンモン保健センター									（基礎）			未定
タイ	国立病院（診療団）	実施											終了
	癌センター	視察	実施	視察	計画	計画	計画	計画	計画			-----	フォローアップ
	ポリオ対策			実施									終了
	ラマテボディ医科大学			実施		実施						-----	終了
	ウイルスセンター				計画		計画	計画	巡回				終了
	薬品研究所												終了
	家族計画								基礎	実施 →			継続
	地域保健活動向上計画									基礎	実施 →		昭和51年度新規

国名	プロジェクト名（調査対象）	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度	昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度		協力の段階（昭和51年4月1日現在）
クメール（カンボジア）	医療センター	実施 実施		視察									終了
ビルマ	ウイルス研究所	視察	実施					（計画）					終了
	歯科大学							基礎 実施					フォローアップ
マレーシア	診療団	視察 実施			予備								終了
インドネシア	西ジャワ中央総合病院		実施	視察	実施					（評価）			終了
	インドネシア大学附属パーサハバダン病院						（計画）						終了
	パジャジャラン大学歯学部	視察											終了
	アンボンマラリア・結核対策			実施		計画							終了
	家族計画				実施	実施							フォローアップ
	インドネシア大学附属ジャカルタ中央病院						実施			巡回			終了
	中央生物医学研究所									基礎	実施		継続
バングラデシュ	家族計画									基礎	実施		継続
ネパール	結核・天然痘対策（国立病院）			実施									終了
	西部地域公衆衛生対策							基礎	実施		計画		継続
インド	ライ研究	視察					実施		巡回		評価		フォローアップ
パキスタン		視察											協力関係なし
スリランカ（セイロン）	セイロン総合病院			実施									終了
	マラリア対策												終了
	セイロン大学医学部	視察				実施			巡回				終了
	薬品検査試験所				実施		実施						フォローアップ
アフガニスタン	国立W・A・K・病院						実施						フォローアップ
	結核対策								基礎	実施			継続
	マラリア対策												フォローアップ

国名	プロジェクト名（調査対象）	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度	昭和45年度	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度		協力の段階（昭和51年4月1日現在）
イラン	テヘラン大学公衆衛生学部	○視察	○										終了
	テヘラン大学医学部		実施			実施 ○							終了
	ポリオ対策		実施								○(評価)		終了
	新規プロジェクト										○事前		未定
エジプト	新規プロジェクト										○事前		未定
ケニア	ナクール病院	○予		○		計画		○計		評			終了
	エンブ病院			実施									終了
	ケニヤッタ病院	○備			○実施	計画		画		価			フォローアップ
タンザニア	ダルエスサラーム大学医学部	○予				○実施			(計画)				終了
	結核対策	○備							○基礎	実施 →			継続
エチオピア	帝国中央衛生研究所	○視察		実施		計画	(計画)						終了
	天然痘対策						○実施		計画				終了
ナイジエリア	ナイジエリア大学医学部	○視察					○基礎	○実施		○計画	巡回		フォローアップ
	イフエ大学医学部												フォローアップ
ガーナ	ガーナ大学医学部	○視察		実施		実施		実施	基礎		巡回		フォローアップ
グァテマラ	オンコセルカ症研究対策									基礎	実施 →		継続
コスタリカ	コスタリカ大学医学部								実施				継続
エクアドル	新規プロジェクト										○事前		未定
ボリビア	新規プロジェクト										○事前		未定
ブラジル	ペルナンブコ大学熱帯医学研究所		実施										終了
	カソリック大学成人病研究所							基礎 ○	実施		計画		継続
パラグァイ	ライ対策							計画			評価		継続
アルゼンチン	新規プロジェクト										○事前		未定
チリ	新規プロジェクト										○事前		未定
台湾	台湾大学				○実								昭和47年度の日台国交断絶に伴ない政府ベースの協力を打切る。
	省立病院				○実施								
	寄生虫対策												
	台北市立病院				○施								

昭　和　41　年　度

予　備　調　査

実　施　調　査

視　察　団

昭和４１年度ー１

1. 調査団名　ヴィエトナム医療事情予備調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィエトナム

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	坂部　　孝			41 4.19	4.27	9	日本大学医学部助教授
2	団員	小川　良治			〃	〃		海外技術協力 事業団医療協力室長

4. 派遣の目的

昭和４１年度より実施される対南ヴィエトナム医療協力予算（２億円）に基づく医療団派遣に関する、(1)現地調査及び(2)医療施設建設のための予備調査を行う。

5. 結論・勧告

医療団派遣についてはサイゴン病院が適当と思われること、医療施設建設についてはチョーライ病院の整備に当るのが適当と思われる。

6. 報告書

『ヴィエトナム共和国医療事情予備調査報告書』

昭和４１年６月　医療資第２号

7. 特記事項

1. 調査団名　ケニア・タンザニア医療協力予備調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア及びタンザニア

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	猪木　正三			41.6.8	6.25	18	大阪大学医学部教授
2	団員	実川　渉			〃	〃	〃	厚生省医務局国立病院課
3	団員	相森　宣雄			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

ケニヤ、タンザニア両国の医療事情を調査し、診療団の派遣に最も適当と思われる地域を選定する。

5. 結論・勧告

医療協力の拠点候補地としてはタンザニアのタンガ国立病院が最適であること、及び同病院に臨床検査室を新設し、さしあたって初年度には内科及び外科医師各1名の派遣を行うこと。

6. 報告書

『ケニアおよびタンザニアにおける医療状況調査報告書』

昭和41年10月　医協資第8号

7. 特記事項

昭和41年度－3

1. 調査団名　ヴィエトナム・カンボディア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィエトナム　チョーライ病院

カンボディア　（モンコルボレー）医療センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	小川　良治	医2		41.6.4	6.22	19	海外技術協力事業団医療協力室長
	団員	山田　兵輔	一般2		〃	6.24	21	佐藤設計事務所長

4. 派遣の目的

南ヴィエトナム；チョーライ病院脳神経外科病棟建築に関る実施調査

カンボディア；（モンコルボレー）医療センターの病棟、検査室増築に関る実施調査

5. 結論・勧告

両件について工事工程表等基本的事項を決定

6. 報告書

『ヴィエトナム共和国およびカンボディア医療協力実施調査報告書』

昭和41年7月　医協資第4号

7. 特記事項

昭和41年度−4

1. 調査団名　カンボディア医療センター実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

カンボディア医療センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1		小川　良治	医2		42. 2.12	42. 2.24	13	海外技術協力事業団 医療協力室長
2		髙橋　良平	一般 2		〃	〃	〃	大和ハウス工業(株)

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

6. 報告書

7. 特記事項

昭和４１年度－５

1. 調査団名　タイ巡回診療団派遣実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ国立病院（診療団派遣）

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	西占　貢	医１		４１.８.８	４１.８.２４	１７	京都大学医学部教授
2	団員	春田　稍二			〃	〃	〃	外務省経済協力局技術協力課
3	〃	仲村　英一	医４		〃	〃	〃	厚生省医務局指導課
4	〃	畑　道好			〃	〃	〃	日本赤十字社衛生部次長
5	〃	加藤　清	一般４		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

タイ国の各地域の中心となる病院を基地に、長期的な巡回診療を行うべく予定されている診療団２チームの派遣に関る実施調査。

5. 結論・勧告

６名から成る診療団二チームをカラシン及びスリサケット地区及びブリラム地区に派遣する旨のＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１２３～１２６頁参照）。

6. 報告書

『タイ国巡回診療団派遣に関する調査報告書』

昭和４１年９月　医協資第５号

7. 特記事項

昭和４１年度－６

1. 調査団名　マレーシア巡回診療団派遣実施調査団

2. 調査団名及び関係プロジェクト名

マレーシア診療団

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	米村　長敏	医特		42. 2.12	42. 2.26	15	富山赤十字病院長
2	副団長	田中　憲児	〃		〃	〃	〃	順天堂大学医学部教授
3	団員	長谷川慧重	医4		〃	〃	〃	厚生省医務局医事課
4	〃	相蘇　宣雄			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室
同　行		長谷川匡司			〃	〃	〃	外務省事務官

4. 派遣目的

１９６６年末から１９６７年始めにかけてマレーシア国を襲った大水害に対する緊急援助として、巡回診療団を派遣することになり、そのための実施調査を行う。

5. 結論・勧告

７名から成る診療団を３ケ月間派遣する旨のＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１４１～１４２頁参照）。

6. 報告書

『マレーシア国診療団派遣に関する調査報告書』

昭和４２年３月　医協資第９号

7. 特記事項

昭和４１年度－７

1. 調査団名　医療協力視察団（タイ、ラオス、インドネシア、マレイシア、フイリピン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、ラオス、インドネシア、マレイシア、フイリピン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	野田　卯一			41. 8.21	9.10	21	衆議院議員
2	団員	寺田　輝介			〃	〃	〃	外務省
3	〃	三浦　英夫			〃	〃	〃	厚生省
4	〃	小川　良治			〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力室長

4. 派遣目的

調査先各国の医療制度、医療水準及び受入体制等について現地調査を行い、長期的総合的な医療協力計画策定に資する。

5. 結論・勧告

タイ国の国立癌センターに対するプロジェクト協力、ラオスのタゴン・ナムグム両地区診療所の拡充強化、インドネシアパジャジャラン大学医学部に対する協力、マレーシア大学医学部に対する機材供与、フイリピンにおけるエルトール・コレラに対する協力を勧告。

6. 報告書

『医療協力調査団報告書－タイ、ラオス、インドネシア、マレイシア、フイリピン』　昭和４４年３月

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和４１年度－８

1. 調査団名　医療協力視察団（セイロン、インド、パキスタン、ビルマ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

セイロン、インド、パキスタン、ビルマ

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	吉江　勝保			41. 8. 4	8. 2 4	2 1	参議院議員
2	団員	坂村　堅太			〃	〃	〃	厚生省栄養課長
3	〃	近藤賢一郎			〃	〃	〃	外務省事務官
4	〃	杉山　孝造			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

各国の医療制度、医療水準及び受入体制について現地調査を行い、長期的・総合的な医療協力計画の策定に資する。

5. 結論・勧告

全般的にみて各国とも我が国の医療水準に対する認識は浅く、我が国の医療協力としてはしたがって、1）専門家派遣による技術指導、2）専門家・研修生の受入れ、3）設備資材の供与などが望まれており実施に当っては、将来独力で運営できるようにすることが重要である。

6. 報告書

『医療協力調査団報告書－セイロン、インド、パキスタン、ビルマ』

昭和４３年３月

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和41年度－9

1. 調査団名　医療協力視察団（イラン、エチオピア、ナイジェリア、ガーナ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　イラン、エチオピア、ナイジェリア、ガーナ

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	白浜　仁吉			41.8.6	8.24	19	衆議院議員
2	団員	大谷　藤郎			〃	〃	〃	厚生省
3	〃	野村　豊			〃	〃	〃	外務省
4	〃	宮本　守也			〃	〃	〃	海外技術協力事業団

4. 派遣目的

各国の医療制度・医療水準及び受入体制等について現地調査を行い、長期的・総合的な医療協力計画の策定に資する。

5. 結論・勧告

イランへの行政専門家の派遣他、エチオピアにおいては結核分野における協力、ナイジェリアに対しては機材供与、ガーナに対してはKorle Bu Hospitalに対する協力をそれぞれ勧告。

6. 報告書

『医療協力調査団報告書－イラン、エチオピア、ナイジェリア、ガーナ』

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭　和　42　年　度

予　備　調　査

実　施　調　査

昭和４２年度－１

1. 調査団名　フィリピン医療協力予備調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フイリピン　ポリオ対策

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	本田　正	医３		42. 5.15	42. 6. 4	21	厚生省薬務局細菌製剤課
2	団員	橋爪　壮	医３		〃	〃	〃	千葉血清研究所組織培養部長
3	〃	三浦　敏一	一般5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

経口生ポリオワクチン供与の要請に対し、これに応えるためフイリピンの投与計画の調査及びワクチン供与の方法等について打合せを行う。

5. 結論・勧告

ワクチン５０万人分の供与及び専門家の派遣による協力並びにキャンペーンスケジュールを織り込みＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』４５～５０頁参照）。

6. 報告書

『フイリピン国ポリオ対策に関する調査報告書』

昭和４２年７月　医協資第１３号

7. 特記事項

昭和４２年度－２

1. 調査団名　ヴィエトナムチョーライ病院予備調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ヴィエトナム　チョーライ病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	山田　兵輔	一般2		42.5.15	5.24	10	佐藤設計事務所長
2	団員	遠藤　昇平	〃		〃	〃	〃	〃
3	〃	飯村　圭司	一般5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団経理部契約課

4. 派遣目的

同病院の診療病棟（脳外科部門）の建設状況の実情調査及び併せて今後の計画等を打合せる。

5. 結論・勧告

6. 報告書

な　し

7. 特記事項

昭和42年度－3

1. 調査団名　ヴィエトナムチョーライ病院予備調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ヴィエトナム　チョーライ病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	野田　　章	一般特	建　築	43.3.26	43.4.7	13	海外技術協力事業団監事
2	団員	山田　兵輔	一般2	〃	〃	〃	〃	佐藤設計事務所長
3	〃	大倉　　理	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団経理事契約課

4. 派遣目的

同病院の診療病棟（脳外科部門）の建設状況の実情調査及び併せて今後の計画等を打合せる。

5. 結論・勧告

6. 報告書

な　し

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和42年度－4

1. 調査団名　フイリピンコレラ対策実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フイリピンコレラ対策

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	福見　秀雄	医特		42. 10.30	11.8	10	国立予防衛生研究所
2	団員	越後貫　博	〃		42. 10.25	〃	15	千葉血清研究所
3	〃	後藤　伍郎	医1		〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局防疫課長
4	〃	三浦　敏一	一般5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

昭和42年5月に日・比両国の厚生大臣によって調印されたメモランダに基づき、コレラ対策の実施にあたって必要となる基本原則、協力スケジュール等を打合せる。

5. 結論・勧告

5年間に亘るオペレーションプランを織り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅰ』29～33頁参照）。

6. 報告書　　なし

参考『フイリピンコレラ対策及びポリオ対策医療協力実施調査団調査報告書』　昭和45年1月　医協資第48号

7. 特記事項

昭和４２年度－５

1. 調査団名　タイ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ癌センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	相良　貞美	医特		42.7.5	7.19	15	国立癌センター運営部長
2	団員	能美　光房	医3		〃	〃	〃	厚生省医務局国立病院課
3	〃	小野　英男	一般6		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

昭和４１年度に派遣された野田卯一議員を団長とする医療協力調査団の勧告に基づき、タイ国におけるガン対策の現情を調査し協力方針を決定する。

5. 結論・勧告

癌の予防、治療、教育、行政部門に関する専門家の派遣及び機材供与、研修員受入れによる協力が望まれる旨のＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ⅱ』２９～３１頁参照）。

6. 報告書

『タイ医療調査報告書－タイ国立癌センター設立計画について』

昭和４２年９月　医－１２

7. 特記事項

参考資料『国立ガンセンタープロジェクトの概要』

昭和４５年５月　医協資第６１号

昭和４２年度－６

1. 調査団名　ビルマ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ビルマ　ウイルス研究所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	東　　昇	医特		42. 7.20	8. 3	15	京都大学ウイルス研究所教授
2	団員	大谷　藤郎	医２		42. 7.22	11	13	厚生省医務局医事課
3	〃	岡野　　裕						外務省技術協力課
4	〃	小川　良治	医２		42. 7.20	7.29	10	海外技術協力事業団医療協力室長

4. 派遣目的

新規事業として取りあげられたビルマ国のウイルス研究に対する医療協力のための実施調査を行う。

5. 結論・勧告

ウイルス病の調査研究及びラボラトリー・ダイアグノーシス並びにスタッフトレーニングを主要な目標とし、専門家派遣、機材供与、研修員受入れによる協力を実施する旨のR／Dを取り極める
（『R／D集Ｉ』１３９～１４０頁参照）。

6. 報告書

『ビルマ医学研究所ウイルス部門設置に関する調査報告書』

昭和４３年３月　医協資第２０号

7. 特記事項

昭和４２年度－７

1. 調査団名　インドネシア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア、西部ジャワ中央総合病院（バジャジャラン大学教育病院）

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	友松　達彌	医特		42.6.22	7.12	21	神戸大学医学部教授
2	団員	向井　陽一	医１		〃	〃	〃	〃
3	〃	林　　弘	医３		〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局企画課
4	〃	長野　偉士			〃	〃	〃	外務省経済協力局技術協力課
5	〃	加藤　清	一般4		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

インドネシア国バンドンの西部ジャワ中央総合病院中央臨床検査室の整備拡充に関する医療協力のための実施調査を行う。

5. 結論・勧告

３名から５名の範囲で専門家を派遣すること及び機材供与、研修員受入による協力を実施する旨のＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１４５～１４８頁参照）。

6. 報告書

『インドネシア共和国西部ジャワ中央総合病院（バジャジャラン大学教育病院）に対する医療協力調査報告書』　昭和４２年９月　医協資第１１号

7. 特記事項

昭和４２年度－８

1. 調査団名　イラン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

イラン、テヘラン大学公衆衛生学部、ポリオ対策

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	石口　修三	医特		42. 7.10	7.30	21	岐阜大学医学部教授
2	団員	館　正知	医1		〃	〃	〃	〃
3	〃	鈴木　光	医2		〃	〃	〃	厚生省薬務局細菌製剤課
4	〃	相蘇　宣雄	一般3		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室
同行		和田　雅夫			〃	〃	〃	外務省経済協力局技術協力課

4. 派遣目的

昭和４１年度に派遣された白浜仁吉議員を団長とする医療協力調査団の調査結果に基づき、ポリオ対策及びテヘラン大学公衆衛生研究所における産業医学講座開設に対する協力の打合せを行う。

5. 結論・勧告

テヘラン大学公衆衛生学部に対しては、基礎産業衛生部門における専門家派遣、機材供与、研修員受入による協力、ポリオ対策については５０万人分のワクチン供与及びワクチン接種アドバイザーの派遣による協力を実施する旨のＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／ＤＩ集』１８７～１８９頁参照）。

6. 報告書

『イラン医療協力実施調査団報告書』

昭和４３年２月　医協資第１７号

7. 特記事項

昭和４２年度－９

1. 調査団名　イランポリオ対策専門家派遣

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

イラン　ポリオ対策

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	専門家	多ケ谷 勇	医特	ウィルス学	43.2.11	2.27	17	国立予防衛生研究所腸内ウィルス部長

4. 派遣目的

客年の７月に派遣された医療協力実施調査団が取り交わしたＲ／Ｄの特にポリオ対策について協力計画の詰めを行う。

5. 結論・勧告

ウィルス学専門家一名の派遣、機材供与による協力を盛り込み、またキャンペーン・スケジュールを作成しＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ⅰ』１９１～１９４頁参照）。

6. 報告書

『イラン国ポリオ撲滅計画に対するわが国の医療協力報告書』

昭和４４年３月　医協資第３２号

7. 特記事項

専門家派遣費による派遣である。

昭和４２年度－１０

1. 調査団名　ブラジル医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ブラジル　ペルナンブコ大学熱帯医学研究所

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	白浜　仁吉	医特		42. 10.9	10.29	21	衆議院議員
2	団員	松林　久吉	〃		〃	〃	〃	慶応義塾大学医学部教授
3	〃	三田　澄夫	医4		〃	〃	〃	厚生省医務局国立病院課
4	〃	吉田　公平	一般 1		〃	〃	〃	海外技術協力事業団 海外事業部長
5	〃	若月　修	一般 4		〃	〃	〃	〃 海外事業部

4. 派遣目的

レシフェ市のペルナンブコ大学熱帯医学研究所に対する医療協力の方針を具体的に打合せる。

5. 結論・勧告

寄生虫病の調査研究、及びラボラトリー・ダイアグノーシス並びにスタッフトレーニングを目標に専門家派遣、機材供与、研修員受入れによる協力を実施する旨のR／Dを取り極める（『R/D集Ⅰ』245～247頁参照）。

6. 報告書

『ブラジル医療協力実施調査団調査報告書』

昭和４３年１月　医協資第１９号

7. 特記事項

昭　和　４３　年　度

予　備　調　査

実　施　調　査

視　察　団

昭和43年度—1

1. 調査団名　韓国医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　韓国　寄生虫対策、癩対策

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	大鶴　正満		寄生虫対策	43.6.24	43.7.8	15	新潟大学医学部教授
2	団員	横川　宗雄			〃	〃	〃	千葉大学医学部教授
3	団長	吉田富三郎		癩対策	〃	〃	〃	国立癩センター所長
4	団員	増淵　一正			〃	〃	〃	〃　部長
5	〃	近藤賢一郎		上記両プロジェクト	〃	〃	〃	外務省事務官
6	〃	佐谷　誠			〃	〃	〃	厚生省技官
7	〃	小川　良治			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室長

4. 派遣目的

標記両プロジェクトの実施にあたり、韓国側と計画の要点を打合せる。

5. 結論・勧告

寄生虫対策については専門家派遣、研修員受入、機材供与による協力を実施する旨のR／Dを取り決める（『R／D集Ⅰ』13～14頁参照）。

癩対策については専門家派遣、機材供与による協力を実施する旨のR／Dを取り決める（『R／D集Ⅰ』17～18頁参照）。

6. 報告書　『韓国寄生虫対策医療協力実施調査団報告書』

昭和44年2月　医協資第30号、『韓国癩対策医療協力実施調査団報告書』　昭和44年2月　医協資第29号

7. 特記事項　合同調査団である。

昭和４３年度－２

1. 調査団名　ヴィエトナムチョーライ病院実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　南ヴィエトナム　チョーライ病院

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	野田　幸			43.12.9	12.23	15	海外技術協力事業団理事
2	団員	山田　兵輔			〃	〃	〃	佐藤設計事務所
3	〃	宮沢　由雄			〃	〃	〃	海外技術協力事業団経理部契約課
4	〃	三浦　敬一			〃	〃	〃	〃医療協力室

4. 派遣目的

　チョーライ病院脳神経外科病棟等の建築問題について、特に第二期工事を着手するにあたっての現地調査及び管理・維持問題について打合せる。

5. 結論・勧告

　書簡の交換を行う（『Ｒ／Ｄ集Ⅰ』５９～６３頁参照）。

6. 報告書

　『ヴィエトナム共和国チョーライ病院に対する医療協力調査報告書』

　　昭和４３年１２月　医協資第３３号

7. 特記事項

昭和４３年度－３

1. 調査団名　インドネシア、アンボン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インドネシア　アンボンマラリア・結核対策

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	大和田国夫	1		44. 1.30	2.21	23	大阪市立大学教授
2	団員	橋爪　藤光	2		〃	〃	〃	厚生省関東信越地方医務局
3	〃	小川　良治	2		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室長
4	同行	目黒　孝敏						外務省経済協力局技術協力課

4. 派遣目的

インドネシア政府と我が国の漁業交渉問題から発生したマルク州アンボンに対する医療協力を実施することになり、そのための協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

専門家派遣、研修員受入、機材供与による協力を実施する旨のＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１５７～１５８頁参照）。

6. 報告書

『インドネシア・アンボン医療協力実施調査団報告書』

　昭和４４年３月　医協資第３１号

7. 特記事項

昭和４３年度－４

1. 調査団名　タイ　ラマティボディ医科大学実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　タイ、ラマティボディ医科大学（眼科部門）

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	福士　克	医２		４３．５．２３	５．３０	８	仙台市立病院眼科医長
2	団員	小野　英男	一般６		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

タイ国バンコック市のラマティボディ大学病院の眼科部門設立に関する医療協力のための実施調査を行う。

5. 結論・勧告

専門家派遣及び機材供与に関するタイ側要望等をリクエストとして持ち帰る（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』９９～１０１頁を参照せよ）。

6. 報告書

『タイ国立ラマティボディ医科大学に関する医療調査報告書　眼科研究部門設立について　』昭和４３年７月　医協資第２５号

7. 特記事項

昭和４３年度－５

1. 調査団名　タイポリオ対策実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、ポリオ対策

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	多ケ谷　勇			43.9.21	10.5	15	国立予防衛生研究所
2	団員	黒子　武道			〃	〃	〃	国立公衆衛生院疫学部
3	〃	三橋　昭男			〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局防疫課
4	〃	戸井田宣雄			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

経口ポリオワクチン５０万人分供与の要請に応え、本計画の実施方法等について打合せる。

5. 結論・勧告

原則として単年度の協力とし、経口生ポリオワクチン５０万人分の供与及び投与関係機材の供与及び専門家の派遣を行う。

6. 報告書

『タイ国ポリオ実施調査団報告書』

昭和４４年５月　医協資第４３号

7. 特記事項

昭和43年度－6

1. 調査団名　ネパール医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ネパール、結核・痘そう対策（国立病院）

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	実川　渉			44.2.14	3.6	21	厚生省公衆衛生局検疫課長
2	団員	青木　正和			〃	〃	〃	(財)結核予防会
3	〃	島田　晋			〃	〃	〃	厚生省薬務局細菌製剤課
4	〃	吉本　静夫			〃	3.6 サイゴンへ	〃	海外技術協力事業団医療協力室
同行		目黒　孝敏						外務省経済協力局技術協力課

4. 派遣目的

ネパール保健省がWHOと協力して実施中の痘そう撲滅計画に対する協力として、ネパール政府は300万人分のワクチン他の供与を要請してきた。これに対し現状を把握し、協力の内容を打合せる。

5. 結論・勧告

医師及びX線技師の派遣、X線装置の機材供与、X線技師研修員の受入れによる協力を実施する旨のR／Dを取り極める

（『R／D集I』163～165頁参照）。

6. 報告書

『ネパール医療協力実施調査団調査報告書』

昭和44年10月　医協資第50号

7. 特記事項

昭和４３年度－７

1. 調査団名　セイロン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

セイロン、薬品検査試験所、マラリア撲滅計画

コロンボ総合病院

3. 調査団の構成

№		氏 名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現 職
1	団長	高井 俊夫			43.8.10	8.31	22	大阪市立大学教授
2	団員	白羽弥右衛門			〃	〃	〃	〃
3	〃	川城 厳			〃	〃	〃	国立衛生試験所副所長
4	〃	高田 秀久			〃	〃	〃	大阪市立大学助教授
5	〃	山内 坦			〃	〃	〃	厚生省医務局国立療養所課
6	〃	吉本 静夫			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

上記三プロジェクトに関し、協力計画の要点を打合せる。

5. 結論・勧告

薬品検査試験所に対しては専門家派遣と研修員受入による協力、マラリア計画に対しては専門家派遣と機材供与、コロンボ総合病院に対しては専門家派遣、研修員受入、機材供与による協力を実施する旨のＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１６７～１６９頁参照）。

6. 報告書

『セイロン医療協力実施調査団調査報告書』

昭和４４年４月　医協資第４４号

7. 特記事項

昭和４３年度－８

1. 調査団名　エチオピア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

エチオピア帝国中央衛生研究所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	鈴木　了司	医２	寄生虫	43.7.4	7.24	21	国立予防衛生研究所
2	団員	緒方　一喜	〃	衛生動物	〃	〃	〃	日本環境衛生センター
3	〃	安西　定			ケニアから 7.13	〃	12	厚生省公衆衛生局企画課
4	〃	池田　麗樹			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室
同行		和田　雅夫			〃	7.21	9	外務省経済協力局技術協力課

4. 派遣目的

上記プロジェクトに関し、今後の協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

二名の寄生虫学専門家及び二名の医動物学専門家の派遣、行政部門他の研修員受入れによる協力を実施する旨のＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』２２５～２２７頁参照）。

6. 報告書

『エチオピア医療協力実施調査団調査報告書』

昭和４３年１１月　医協資第２７号

7. 特記事項

昭和４３年度－９

1. 調査団名　ケニア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア　ナクール病院、エンブ病院

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	福見　秀雄		ナクール班	43. 6.26	7.11	16	国立予防研究所細菌第一部長
2	団長	山村　雄一		エンブ班	〃	7. 6	11	大阪大学医学部長
3	団員	辻　泰邦			〃	7.11	16	長崎大学医学部教授
4	〃	曲直部寿夫			43. 7. 1	7.13	13	大阪大学医学部教授
5	〃	安西　定			ガーナから 7. 5	7.13 エチオピアへ	8	厚生省公衆衛生局企画課
6	〃	青木　重			43. 6.26	7.10 ウガンダへ	14	文化庁長官官房国際文化課
7	〃	池田　麗樹			ガーナから 7. 5	7.13 エチオピアへ	8	海外技術協力事業団医療協力室
同行		和田　雅夫			〃	〃	〃	外務省経済協力局技術協力課

4. 派遣目的

現在実施中の標記二プロジェクトに関しより効果的な推進を図ることを目的に今後の協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

ケニア側が両病院に臨床関係の研究室を設置次第外科医及びX線専門家の派遣及びX線装置の供与による協力を開始する旨のR／Dを取り極める（『R／D集I』205～206頁参照）。

6. 報告書

『ケニア医療協力実施調査団調査報告書』

昭和44年4月　医協資第35号

7. 特記事項　合同調査団である。

昭和４３年度－１０

1. 調査団名　ガーナ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ガーナ、ガーナ大学医学部

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	本多　憲児		外科学	43. 6.20	7. 6	17	福島県立医科大学教授
2	団員	星島啓一郎		衛生学	〃	〃	〃	〃
3	〃	安西　　定		公衆衛生	〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局企画課
4	〃	池田　威樹		調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室
同行		和田　雅夫			〃	〃	〃	外務省経済協力局技術協力課

4. 派遣目的

新規事業として取り上げられたガーナ大学医学部に対する医療協力の実施にあたり現情を調査し計画の要点を打合せる。

5. 結論・勧告

研究教育及び公衆衛生の向上に重点を置き専門家派遣、機材供与、研修員受入れによる協力を行う旨のＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ⅱ』８３～８７頁参照）。

6. 報告書

『ガーナ医療協力実施調査団調査報告書』

昭和４３年１０月　医協資第２６号

7. 特記事項

昭和４３年度－１１

1. 調査団名　医療協力視察団（カンボディア、フィリピン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

カンボディア　医療センター

フィリピン　　ポリオ対策、コレラ対策

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	大石　武一			44. 3.19	3.26	8	衆議院議員
2	団員	浅野　一雄			〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局防疫課
3	〃	志賀　忠夫			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

カンボディア、フィリピンに対するわが国の医療協力の実情を視察し、同時に両国の関係者と今後の医療協力を打合せる。

5. 結論・勧告

カンボディアについては医師・看護婦その他のパラメディカル要員の養成に全力をあげること。

フイリピンについてはコレラ関係の協力機構を一元化する必要がある。

6. 報告書

『医療協力視察団報告書－インドネシア、ヴィエトナム、タイ、カンボディア、フイリピン－』　昭和４４年４月　医協資第３８号

7. 特記事項

昭和43年度－12

1. 調査団名　医療協力視察団（インドネシア、ヴィエトナム）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア　西ジャワ中央総合病院、パジャジャラン大学歯学部

南ヴィエトナム　チョーライ病院、サイゴン病院

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	秋田　大助			44.3.13	3.20	8	衆議院議員
2	団員	近藤　東郎			〃	〃	〃	慶応義塾大学医学部助教授
3	〃	中村賢二郎			〃	〃	〃	文部省大学学術局大学病院課
4	〃	石塚　説			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

調査先両国の医療事情、現在実施中プロジェクトの現情及び世界各国の協力の実態を調査する。

5. 結論・勧告

インドネシア大学心臓研究所に対する専門家派遣と機材供与、及び南ヴィエトナムに対しては専門家派遣、機材のアフターサービス、研修員受入の拡大が必要である。

6. 報告書

『医療協力視察団報告書－インドネシア、ヴィエトナム、タイ、カンボディア、フイリピン』　昭和44年10月　医協資第38号

7. 特記事項

昭和43年度－13

1. 調査団名　医療協力視察団（タイ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、国立病センター、ポリオ対策、ウイルス・センター

中央胸部病院、ラマティボディ医科大学他

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	白浜　仁吉			44.3.8	3.14	17	衆議院議員
2	団員	吉田　賢一			〃	〃	〃	〃
3	〃	辻林　嘉平			〃	〃	〃	厚生省医務局
4	〃	勝田　博			〃	〃	〃	海外技術協力事業団総務部

4. 派遣目的

タイ国の医療事情、現在実施中のプロジェクトの現状を視察する。

5. 結論・勧告

医療協力の目標を明確に設定し、その目標を達成するための抜本的対策を検討すべきである。

6. 報告書

『医療協力視察団報告書－インドネシア、ヴィエトナム、タイ、カンボディア、フイリピン－』　昭和44年4月　医協資第38号

7. 特記事項

昭　和　44　年　度

予　備　調　査

実　施　調　査

年次協議（計画打合せ）調査

昭和44年度－1

1. 調査団名　マレーシア医療協力予備調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

マレーシア　マレーシア大学医学部

マレーシア総合病院

3. 調査団の構成

№	団	氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	佐々　学	医特		45. 3. 1	45. 3. 17	17	東京大学医科学研究所教授
2	団員	小酒井　望	医1		〃	〃	〃	順天堂大学教授
3	〃	上条　清明	医3		〃	〃	〃	〃　助教授
4	〃	加藤　辰三	一般5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

既に協力が終了している医療協力事業の効果測定を行い、今後の協力の可能性を調査する。

5. 結論・勧告

6. 報告書

なし

7. 特記事項

昭和44年度ー2

1. 調査団名　中華民国医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

台湾　台湾大学医学部　台湾省立病院　台北市立病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	今永　一			44. 11.15	11.29	15	愛知県がんセンター病院長
2	団員	大森文太郎			〃	〃	〃	厚生省医務局総務課
3	〃	後藤　幸一			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

標記の三プロジェクトについて医療協力を実施するため具体的内容を相手側と打合せる。

5. 結論・勧告

台湾の医学及び公衆衛生の向上を図るため上記の三プロジェクトに対し、専門家の派遣、機材供与の協力を行う旨を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅰ』253〜255頁参照）。

6. 報告書

『中華民国医療協力実施調査団調査報告書』

昭和45年4月　医協資第59号

7. 特記事項

昭和44年度－3

1. 調査団名　中華民国寄生虫対策専門家チーム

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　台湾　寄生虫対策

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		横川　宗雄			45.3.24	4.2	10	千葉大学医学部教授
2		大鶴　正満			〃	〃	〃	新潟大学医学部教授
3		新垣　和成			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部

4. 派遣目的

台湾における寄生虫の蔓延状況を調査し、本件協力の重点等実施上の要点を協議する。

5. 結論・勧告

専門家派遣、研修員受入、機材供与による協力を実施する旨のR／Dを取り極める（『R／D集Ⅰ』251～252頁参照）。

6. 報告書

『中華民国寄生虫対策派遣専門家総合報告書』

　昭和46年2月　医協資第64号

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和44年度－4

1. 調査団名　フィリピン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　フィリピン、ポリオ対策、コレラ対策

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	柳沢　謙			44.9.10	9.24	15	国立予防衛生研究所副所長
2	団員	山形　操六			〃	〃	〃	千葉県血清研究所長
3	〃	山本　俊一			〃	〃	〃	東京大学医学部教授
4	〃	池田　麗樹			〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

協力実施中の標記プロジェクトについて従来の協力効果の測定評価を行い、併せて今後の協力計画について「比」側と打合せを行う。

5. 結論・勧告

両プロジェクトについて将来計画を盛り込み、またポリオ対策の2年間の協力延長等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集I』35～42頁参照）。

6. 報告書

『フィリピンコレラ対策及びポリオ対策医療協力実施調査団調査報告書』

　昭和45年1月　医協資第48号

7. 特記事項

昭和44年度－5

1. 調査団名　インドネシア家族計画実施調査団（第一次）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インドネシア　家族計画

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	舘　　稔			44.10.4	10.15	15	厚生省人口問題研究所
2	団員	黒田　俊夫			〃	〃	〃	〃
3	〃	荻野　博			〃	〃	〃	国立公衆衛生院
4	〃	村松　稔			〃	〃	〃	〃
5	〃	竹村　宏之			〃	〃	〃	厚生省大臣官房企画室

4. 派遣目的

同国における家族計画事業に協力するため、協力の具体的内容を打合せる。

5. 結論・勧告

専門家派遣、機材供与、研修員受入れのプロジェクト方式による協力により実施する旨を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』341～343頁参照）。

6. 報告書　な　し

　参考『インドネシア家族計画実施調査団報告書』

　昭和46年3月

7. 特記事項

昭和44年度－6

1. 調査団名　インドネシア西部ジャワ中央病院実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インドネシア、西部ジャワ中央総合病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	辻　昇三	医特	内科学	45.1.13	1.27	15	神戸大学医学部教授
2	団員	堀田　進	医1	微生物学	〃	〃	〃	〃
3	〃	福崎　恒	医2	内科学	〃	〃	〃	〃　講師
4	〃	岡部　和夫	一般3	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

昭和45年6月の協力終了を控え、従来の協力効果の測定・評価を行い、併せて今後の協力計画について「イ」側と打合せを行う。

5. 結論・勧告

将来計画として専門家派遣と研修員受入を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅰ』149～151頁参照）。

6. 報告書

『インドネシア西部ジャワ中央病院医療協力調査報告書』

　1970年2月　医協資第56号

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和４４年度－７

1. 調査団名　セイロン薬品検査試験所実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　セイロン（スリランカ）　薬品検査試験所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	川城　巌	医特		44. 12.2	12.16	15	国立衛生試験所長
2	団員	江島　昭	医３		〃	〃	〃	国立衛生試験所
3	〃	吉本　静夫	医２		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

専門家派遣計画及び研修員受入計画等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』229～233頁参照）。

6. 報告書

　　な　し

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和44年度ー8

1. 調査団名　ケニア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア、ケニヤッタ病院（I．C．U）

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	恩地　裕	1	外　科	45.1.4	1.18	15	大阪大学助教授
2	団員	川島　康生	3	外　科	〃	〃	〃	大阪大学講師
3	〃	片倉　健雄	3	工　学	〃	〃	〃	大阪大学助教授
4	〃	池田　滉樹	4	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

ケニア国政府が計画中の国立ケニヤッタ病院のI．C．Uの創設に関するわが国への協力要請に対し、現情を調査し協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

専門家派遣、研修員受入、機材供与による協力を実施する旨のR／Dを取り極める（『R／D集II』257～261頁参照）。

6. 報告書

『ケニア医療協力（ICU創設）調査団調査報告書』

昭和45年3月　医協資第49号

7. 特記事項

昭和44年度－9

1. 調査団名　タイ、ウイルスセンター及び薬品研究所年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、ウイルスセンター

薬品研究所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	北岡　正見	医特		44. 8.13	8.20	8	国立予防衛生研究所ウイルスリケッチア部長
2	団員	深井孝之助	医1		44. 8. 5	8.23	19	大阪大学微生物病研究所教授
3	〃	名取　信策	医2		〃	〃	〃	国立衛生試験所生薬部長
4	〃	吉本　静夫	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

標記の二プロジェクトについて年次協議を行う。

5. 結論・勧告

両プロジェクトについて将来計画を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集I』85～90頁参照）。

6. 報告書

『タイ国ウイルスセンターおよび薬品研究所1969年年次協議報告書』

昭和45年5月　医協資第58号

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和44年度－10

1. 調査団名　タイ国立がんセンター年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　タイ、国立癌センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	小西　宏	医1	病院運営	44. 11.5	11.9	15	国立癌センター運営部長
2	団員	梅垣洋一郎	〃	放射線	〃	〃	〃	〃　放射線診療部長
3	〃	伊藤　一二	〃	外　科	〃	〃	〃	〃　病棟部長
4	〃	内山　孝	一般1	病院設計	〃	11.26	18	厚生省医務局整備課
5	〃	岩木　五郎	一般3	設計(電気)	〃	〃	18	〃
6	〃	小野　英男	一般6	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力室

4. 派遣目的

　標記プロジェクトについて、病院建設設計に関する助言及び従来の協力効果の測定並びに今後の方針について　年次協議を行う。

5. 結論・勧告

　定例年次協議の設置等を盛り込みR／Dを取り極める

（『R／D集Ⅱ』35～43頁参照）。

6. 報告書

　『タイ国立がんセンタープロジェクトの概要－第3次医療調査団報告を中心として－』　昭和45年5月　医協資第61号

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭　和　４５年　度

実施　調査

計画打合せ調査

機材修理班

昭和４５年度一１

1. 調査団名　タイラマティボディ医科大学実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、ラマティボディ医科大学眼科部門及び病理学部門

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	外山　敏夫	医特	総括	46. 2. 3	2. 13	11	慶応義塾大学医学部教授
2	団員	中島　章	医1	眼科	〃	〃	〃	順天堂大学医学部教授
3	〃	溝渕　彰	一般5	調整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団国内事業部研修一課

4. 派遣目的

昭和４３年度に開始したラマティボディ医科大学の眼科部門及び一年後の病理学部門における我が国の医療協力に対し、昭和４５年度にタイ側から計画になかった新分野の協力要請があり、これに応じるため要請の内容を調査し、協力計画を再検討し、今後の協力に資することを目的とする。

5. 結論・勧告

上記の二部門ともに、専門家派遣、機材供与、研修員受入れの各項目毎に将来計画を作成しこれを盛り込んでＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１０３～１０８頁参照）。

6. 報告書

『タイ国ラマティボディ医大医療協力実施調査団報告書』

昭和４６年４月　医協資第６８号

7. 特記事項

昭和45年度－2

1. 調査団名　インドネシア家族計画実施調査団（第二次）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インドネシア　家族計画

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	片桐　為精	医2	総　括 家族計画	45. 12.8	12.22	15	国際家族計画連盟 西太平洋事務局長
2	団員	青木　尚雄	医2		〃	〃	〃	厚生省人口問題研究所
3	〃	近　泰男	〃	家族計画	〃	〃	〃	(社)日本家族計画協会理事
4	〃	堀田　吉男	一般3	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

　インドネシア家族計画5ケ年計画の進行に関し我が国が供与しうる機材の選定に必要な打合せ、各種国際機関との調整、供与済機材の利用状況の調査等を行う。

5. 結論・勧告

　「イ」側は専門家派遣と研修員の受入れ、及び視聴覚機材の供与による協力を強く望んでいる。

6. 報告書

　『インドネシア家族計画実施調査団報告書』

　　昭和46年3月

7. 特記事項

昭和４５年度－３

1. 調査団名　セイロン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　セイロン、セイロン大学医学部

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	田中　英雄	医特		45. 12.22	46. 1. 7	17	大阪市立大学医学部教授
2	団員	和気健二郎	医3		〃	〃	〃	〃　助教授
3	〃	小野　英男	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

ペラデニヤのセイロン大学医学部の電子顕微鏡設置について「セ」側から我が国に協力要請があり、前年度の１２月に派遣された薬品検査試験所実施調査団に対してもこの要望を伝えてきた。これに応え設置にかかる調査及び打合せを行う。

5. 結論・勧告

同学部に電子顕微鏡を設置し、これを用いての生医学研究診断及び教育について協力を行う旨を盛り込みＲ／Ｄを取り極める

（『Ｒ／Ｄ集Ｉ』１７３～１８６頁参照）。

6. 報告書

『セイロン大学（ペラデニヤ）医学部電子顕微鏡設置にかかる医療協力実施調査報告書』　昭和４６年１月　医協資第６６号

7. 特記事項

昭和45年度－4

1. 調査団名　イラン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

イラン、テヘラン大学医学部

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	伊藤　友喜	医1	総括・生化学	45.12.22	46.1.7	17	岐阜大学医学部教授
2	団員	柴山　磨樹	医3	放射線	〃	〃	〃	〃　講師
3	〃	旗谷　晃	一般6	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

イラン国政府が要請するテヘラン大学医学部の放射線診断機能向上及び異常血色素症研究体制確立に対する協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

放射線医学及び異常血色素症研究にプロジェクトのテーマを置き協力を実施する旨を盛り込みR／Dを取り極める

（『R／D集Ⅱ』245～247頁を参照せよ）。

6. 報告書

なし

7. 特記事項

昭和45年度－5

1. 調査団名　タンザニア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タンザニア、ダルエスサラーム大学医学部

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	小池　望淳			46.1.31	2.18	19	九州大学歯学部教授
2	団員	原　現吉			〃	〃	〃	文部省大学学術局研究助成課
3	〃	山元　寅男		解剖学	〃	〃	〃	九州大学医学部教授
4	〃	田中　一郎		調　整	〃	2.19	20	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

タンザニアからの電子顕微鏡の供与要請ならびに関連基礎医学の向上の要請に応え、ダルエスサラーム大学医学部に対する協力を行うこととなり、この協力に必要な打合せを行う。

5. 結論・勧告

電子顕微鏡を利用しての解剖学研究及び生医学研究並びに教育協力を重点とすること等を含めR／Dを取り纏める（『R／D集I』221～224頁参照）。

6. 報告書

『タンザニア共和国医療協力実施調査団調査報告書』

昭和46年8月　医71－4（71）

7. 特記事項

昭和４５年度ー６

1. 調査団名　ガーナ　ガーナ大学医学部実施調査団（第二次）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　ガーナ　ガーナ大学医学部

　　タイ、インド、ケニア

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	本多　憲児	医特	総括・外科	46. 1.11	1.31	21	福島県立医科大学教授
2	団員	加藤　辰三		調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和４４年度に開始したガーナ大学医学部プロジェクトの中間的エバリュエーションを行い、併せて今後の協力計画を打合せる。

なお往路タイ、インド、ケニア三国の医療事情調査を行う。

5. 結論・勧告

ガーナ国政府は今後本プロジェクトを基盤にして、ウイルス学並びに伝染性疾患等熱帯病の一大研究所、野口メモリアルインスティテュートの設立を要望しているが、この実現に対する協力が望まれる。

6. 報告書

『第二次ガーナ医療協力実施調査団調査報告書』

　昭和４６年３月　医協資第６５号

7. 特記事項

昭和４５年度－７

1. 調査団名　インドネシア・アンボンマラリア・結核対策計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア　アンボンマラリア・結核対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		馬場 治賢	医特	結　核	45. 11. 7	12. 6	30	国立療養所中野病院長
2		後藤 幸一	一般 5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和４４年３月に派遣された医療協力実施調査団が取り極めたＲ／Ｄに基づき、協力実施中の標記プロジェクトについて今般結核専門家の派遣方要請があり、これに応え２名の専門家を派遣することになりこれに合わせて将来計画等に関する打合せのための調査団を派遣することになった。

5. 結論・勧告

Ｒ／Ｄを取り極める（散逸）。

6. 報告書

な　し

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和45年度ー8

1. 調査団名　タイ国立ガンセンター病院建設コンサルティングチーム

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、国立ガンセンター

3. 調査団の構成

№.			等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		梅垣洋一郎	医1	総括・放射線	46. 1.17	1.31	15	国立ガンセンター放射線診療長
2		伊藤　一二	〃	外　科	〃	〃	〃	〃 病棟部長
3		松本　健	一般4	放射線	〃	〃	〃	国立ガンセンター
4		浜　賢吉	一般5		〃	〃	〃	浜医科工業㈱
5		工藤　好嗣	一般4	テレコバルト	〃	〃	〃	東芝放射線㈱
6		前原　英保	一般5	リニアック	〃	〃	〃	日本電気㈱

4. 派遣目的

現在実施中の標記プロジェクトに関し、放射線病棟、病院が建設中であり、この開設に伴ない供与される予定となっている放射線治療器等の器材設置に関しタイ側と協議する。

5. 結論・勧告

放射線治療部門、外科部門、内視鏡等の部門別に打合せる（下記報告書参照）。

6. 報告書

『タイ国立がんセンター病院建設コンサルティングチーム報告書』

昭和46年2月　医協資第67号

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭和45年度－9

1. 調査団名　エチオピア、帝国中央衛生研究所計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

エチオピア、帝国中央衛生研究所

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	小平　正	医特		46. 2. 3	2.23	21	栃木県衛生センター所長
2	団員	後藤　伍郎	医1	医療協力	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部長

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

6. 報告書

なし

7. 特記事項

昭和４５年度ー１０

1. 調査団名　ケニア・ナクール病院計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　ケニア、ナクール病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	綺島　四郎	医特	総括・内科	45. 11.25	12.13	19	長崎大学医学部教授
2	団員	林　　薫	医1	ウイルス学	〃	〃	〃	長崎大学熱帯医学研究所教授
3	〃	渡辺　豊輔	〃	病理学	〃	〃	〃	長崎大学医学部教授
4	〃	新垣　和成	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和４１年度から始まったナクール病院に対する医療協力が第一段階を終了するに当って同プロジェクト協力の将来計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

専門家派遣計画及び機材供与の両項目を盛り込み、また将来病院内に熱帯医学研究所を設置しこの分野での協力を考慮する点等も含めR／Dを取り極める(『R／D集Ｉ』２１７～２１８頁参照)。

6. 報告書

　　な　し

7. 特記事項

昭和45年度－11

1. 調査団名　ケニア　ケニヤッタ病院計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア、ケニヤッタ病院（I．C．U）

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	曲直部寿夫	医1	総括・外科	46. 1.10	1.25	15	大阪大学医学部教授
2	団員	石槗　俊元	医2		〃	〃	〃	名古屋大学医学部助教授
3	〃	片倉　健雄	一般3		〃	〃	〃	大阪大学工学部助教授
4	〃	吉本　静夫	医2	調整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課長

4. 派遣目的

昭和45年1月に派遣された実施調査団が取り極めた上記プロジェクト協力に関し、I．C．U建設工事の進捗状況を調査し、開設をひかえたI．C．Uの運営方針等を含む協力計画の詳細について打合せを行う。

5. 結論・勧告

日本側専門家のリーダーがアドザイザリー・コミッティーのメンバーとなり運営に参加する。

6. 報告書　　なし

7. 特記事項　吉本団員を除き専門家派遣費による派遣である。

昭和４５年度－１２

1. 調査団名　医療機材管理技術巡回指導班

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、南ヴィエトナム

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1		中村秀之助	一般5		46. 3.14	3.31	18	㈱島津製作所技術課
2		川上　博文	〃		〃	〃	〃	サクラ精機㈱
3		梶山　一美	〃		〃	〃	〃	㈱日立製作所理器検査課
4	調整員	隅田　栄亮	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団経理部契約課

4. 派遣目的

本年度から新規事業として既供与済機材の保守・管理・修理のための巡回チームを派遣することになり、タイの(1)国立がんセンター　(2)マヒドール大学熱帯医学研究所　(3)薬品研究所　(4)ラマティボディ病院　(5)ウイルスセンター及び南ヴィエトナムの(1)サイゴン病院　(2)チョーライ病院を巡回する。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４５年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和４６年９月　医７２－８－８３

7. 特記事項　専門家派遣費による派遣である。

昭　和　４６年　度

基 礎 調 査

実 施 調 査

計画打合せ調査

機 材 修 理 班

昭和46年度－1

1. 調査団名　　ナイジェリア医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ナイジェリア

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	鎌田　金次郎	医1	総括 歯科学 解剖学	47 2.24	3.16	22	東京医科歯科大学教授
2	団員	重藤　学二	一般3	教育行政	〃	〃	〃	文部省大学学術局 学術課
3	〃	吉本　静夫	医2	調整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課長

4. 派遣目的

ナイジェリア政府が要請しているナイジェリア大学医学部及びイフエ大学医学部の基礎医学部内に対する医療協力の可能性を調査し、併せて医療事情全般の現情調査を行う。

5. 結論・勧告

ナイジェリア大学医学部及びイフエ大学医学部双方に対し基礎医学教育分野で協力することが望まれる。なお、協力期間としては最低5年は必要と考えられる。

6. 報告書

『ナイジェリア医療協力基礎調査団報告書』

昭和47年1月、医72－10（85）

7. 特記事項

昭和４６年度－２

1. 調査団名　　韓国医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　韓国カソリック医科大学産業医学センター

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	斉藤　一	医特	総括・産業災害	46 8. 1	8.15	15	(財)労働科学研究所長
2	団員	重松　逸造	医１	疫　学	〃	〃	〃	国立公衆衛生院疫学部長
3	〃	録木　外造	医４	厚生行政	〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局保健所課
4	〃	小野英美子	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

医療協力の一環としてカソリック医科大学附属研究所のカソリック産業医学センターの施設充実を図り、韓国における産業災害及び労働衛生対策を推進するための現地調査を行い、併せて協力方針等について打合せする。

5. 結論・勧告

産業衛生部門における教育と研究活動について３年間の協力期間を以って協力する旨を盛り込みＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集１』９～１０頁参照）。

6. 報告書

『韓国カソリック医大産業医学センター等に対する医療協力実施調査団報告書』　昭和４６年１２月、医７１－６－７３

7. 特記事項

昭和46年度 ー 3

1. 調査団名　　ラオス医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ラオス、タゴン医療センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	加納　保之	医特	総括・内科	47 2.29	3.16	17	国立霞ヶ浦病院長
2	団員	高橋彦太郎	医2	衛生行政	〃	〃	〃	厚生省医務局医事課
3	〃	加藤　辰三	一般5	調　整	47 2.26	3.18	22	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和44年3月の専門家派遣以来同センターに対し我が国は医療協力を実施してきているが、今般ラオス国政府から同センターの拡大計画に伴う医療協力を要請してきた。これに応え、協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

タゴン医療センターを中心とする公衆衛生と診療に対して3年間の協力期間を以って協力する旨のR／Dを取り極める（『R／D集1』67〜69頁参照のこと）。

6. 報告書

『ラオスタゴン医療センター派遣専門家関係報告書』

昭和48年、医73ー3（93）

7. 特記事項

昭和46年度－4

1. 調査団名　　インドネシア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア、インドネシア大学医学部附属ジャカルタ中央病院（チプトマングンクスモ病院）、バーサハバダン病院、パジャジャラン大学

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	友松　達弥	医特	総括・内科	46 7.21	8.12	23	神戸大学医学部教授
2	団員	島尾　忠男	医1	結　核	〃	〃	〃	(財)結核予防会 結核研究所副所長
3	〃	水村亮太郎	医2	厚生行政	〃	〃	〃	厚生省医務局医事課
4	〃	吉本　静夫	〃	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課長

4. 派遣目的

標記三プロジェクトの協力案件に関する現地調査及び協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

バーサハバダン病院へのX線装置の供与、パジャジャラン大学口腔外科プロジェクトは1971年（昭和45年）を以って終了する旨を銘記し、R／Dを取り極める（『R／D集Ⅰ』159～161頁、又は『R／D集Ⅱ』215～217頁を参照せよ）。

6. 報告書

『インドネシア医療協力調査団調査報告書』

昭和47年2月、医71－7－74

7. 特記事項

昭和46年－5

1. 調査団名　　インド医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インド救癩（ＪＡＬＭＡ）センター

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	濱江　幾雄	医特	総括・ライ病	47 2.20	3. 7	17	国立多摩研究所長
2	団員	伊藤利根太郎	医1	ライ病	〃	〃	〃	大阪大学微生物病研究所長
3	〃	溝淵　彰	一般5	調整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

(財)アジア救ライ協会がインド政府との協力で推進するＪＡＬＭＡセンターの医療活動に対して、インド政府は政府ベースの技術協力の一環としてライ研究部門への協力を要請して来た。これに応え、具体的な協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

ライ研究に対し3年の協力期間を以って協力する旨のＲ／Ｄが大筋で合意されたが、調査期間内に調印はなされず後日大使館を通しての調印の運びとなった（『Ｒ／Ｄ集Ⅱ』221～223頁を参照のこと）。

6. 報告書

『インド救ライセンター医療協力実施調査団調査報告書』

　昭和47年5月、医72－4－79

7. 特記事項

昭和４６年度－６

1. 調査団名　　セイロン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　セイロン、薬品検査試験所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	川城　巌	医特	総括・薬理学	46 8.30	9.13	15	国立衛生試験所長
2	団員	井上　哲男	医1	薬品分析学	〃	〃	〃	国立衛生試験所薬品部長
3	〃	桑村　司	医3	薬理学	〃	9.14	16	〃 薬理部
4	〃	佐藤　嘉宏	一般6	調整	〃	9.13	15	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

R／Dを取り極める。

6. 報告書

なし

7. 特記事項

井上、桑村両団員は専門家派遣費による派遣である。

昭和46年度－7

1. 調査団名　アフガニスタン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

アフガニスタン、国立ワジール・アクバル・ハーン（WAK）病院

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	曲直部寿夫	医特	総括・外科	47 3. 2	3.16	15	大阪大学医学部教授
2	団員	朝倉新太郎	医2	公衆衛生	〃	〃	〃	〃
3	〃	佐々木輝幸	医3	厚生行政	〃	〃	〃	厚生省医務局国立療養所課
4	〃	大川　彩也	一般6	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

1967（昭和42）年以来5年に亘る本件協力のエバリューションを行うとともに、将来の協力計画について打合せる。

5. 結論・勧告

協力期間の2年間延長及び専門家派遣計画等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』237～241頁参照）。

6. 報告書

『アフガニスタン医療協力実施調査団報告書』

昭和47年8月、医72－6（81）

7. 特記事項

昭和４６年度－８

1. 調査団名　　エチオピア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　エチオピア、天然痘（撲滅）対策、帝国中央衛生研究所

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	多ケ谷　勇	医特	総括・ウイルス学	46 12. 2	12.21	20	国立予防衛生研究所腸内ウイルス部長
2	団員	土屋　夏実	医1		〃	〃	〃	京都市衛生研究所研究所次長
3	〃	後藤　伍郎	医1	医療協力	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部長
4	〃	室　　靖	一般2	調　整	〃	〃	〃	海外青年協力隊事務局企画調査室長

4. 派遣目的

　１９７０年のＷＨＯ総会のエチオピアの天然痘撲滅計画決議にもとづく同国の撲滅対策に対して、その要員不足を補うため「エ」政府は我が国に要請してきた。これに応え、協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

　専門家（含ボランティア）派遣、機材供与、研修員受入れについて協力計画を整めR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』２７３～２７７頁を参照せよ)。

　なお、協力期間の銘記はない。

6. 報告書

　『エチオピア痘そう対策医療協力調査団報告書』

　　昭和４７年５月、医７２－２－７７

7. 特記事項

昭和46年度 — 9

1. 調査団名　　フィリピンコレラ対策計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン、コレラ対策、ポリオ対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	福見　秀雄	医特	総括・細菌学	46 6.30	7. 6	8	国立予防衛生研究所 細菌部長
2	団員	山本　俊一	医1	衛生学	〃	〃	〃	東京大学医学部教授
3	〃	平山　宗宏	〃	母子衛生	〃	〃	〃	〃
4	〃	岡本駢太郎	医2	厚生行政	〃	7.17	18	厚生省公衆衛生局 検疫課
5	〃	石塚　脁	一般 5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

6. 報告書

なし

7. 特記事項

平山、岡本両団員は専門家派遣費による派遣である。

昭和46年度－10

1. 調査団名　　タイ国立癌センター年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　タイ、国立癌センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	石戸　利貞	医1		46 6.7	6.19	13	国立癌センター運営部長
2	団員	伊藤　一二	〃		〃	〃	〃	〃 病棟部長
3	〃	北川　俊夫	医2		〃	〃	〃	〃 放射線診療部長
4	〃	仁井谷久暢	〃		〃	〃	〃	〃 病院臨床検査部
5	〃	新谷　鉄郎	一般2		〃	〃	〃	厚生省医務局医事課長
6	〃	堀田　吉男	一般3		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

今年度内で終了予定の標記プロジェクトについてタイ側から強い延長要望があり、検討の結果三年間の延長の意向を固め、その協力計画をタイ側と協議する。

5. 結論・勧告

協力期間の三年間延長等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』51～54頁参照）。

6. 報告書

『タイ国立癌センター年次協議調査団報告書』

昭和47年3月、医71－8－75

7. 特記事項

石戸団長、堀田団員を除き専門家派遣費による派遣である。

昭和46年度－11

1. 調査団名　　タイ、ウイルスセンター・薬品研究所年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、ウイルスセンター

薬品研究所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	深井孝之助	医1	総括・ウイルス学	46 9. 1	9.12	12	大阪大学微生物病研究所
2	団員	大谷　明	医2	ウイルス学	〃	〃	〃	国立予防衛生研究所ウイルス リケッチア 部長
3	〃	名取　信策	医2		〃	〃	〃	国立予防衛生研究所生薬部長
4	〃	熊谷　晃	一般6	調　整	〃	9.15	15	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

標記の2プロジェクトについて年次協議を行う。

5. 結論・勧告

薬品研究所プロジェクトについては、専門家の派遣計画及び研究室設置後のフォローアップの必要性を銘記しR／Dを取り極める（『R／D集I』119～120頁参照）。なお、ウイルスセンターについては、R／Dが散逸してしまった関係上、不明である。

6. 報告書

なし。　参考〃Repots on the Thai Medical Plants Research Project 1971～1973　Nov.1974

7. 特記事項

昭和46年度ー12

1. 調査団名　　医療機材管理技術巡回指導班（南ヴィエトナム、ラオス）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィエトナム

ラオス

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1		泉　孝一郎	一般 5	電子機材	47 2.26	3.12	16	三栄測器（株）
2		小木田　清	一般 6	歯科機材	〃	〃	〃	（株）吉田製作所
3		本間　三男	一般 4	X線	〃	〃	〃	（株）島津製作所
4	調整員	加藤　辰三	一般 5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

南ヴィエトナムのチョーライ病院、サイゴン病院、ラオスのルアンプラバン病院、タゴン医療センターを巡回し、既供与済機材の修理保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和46年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和47年9月、医72－9－84

7. 特記事項

昭和46年度－13

1. 調査団名　医療機材管理技術巡回指導班（インドネシア、タイ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア、タイ

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1		塚本　雅士	一般5	X　線	46 11.20	12.5	16	東芝電気（株）
2		柿沼　建	一般6	一般機材	〃	〃	〃	サクラ精機（株）
3		大藪　道夫	一般5	電子機材	〃	〃	〃	フクダ電子（株）
4	調整	篠浦　烈	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団経理部契約第二課

4. 派遣目的

インドネシアの西部ジャワ中央総合病院、タイの国立がんセンター、ウイルス研究所、薬品研究等を巡回し、既供与済機材の修理保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和46年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和47年9月、医72－9－84

7. 特記事項

専門家派遣費による派遣である。

昭和46年度－14

1. 調査団名　医療機材管理技術巡回指導班（エチオピア、ケニア、ガーナ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

エチオピア、　ケニア、　ガーナ

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1		岩永　忠則	一般 2	一般機材	47 3. 8	3.27	20	(株)トミー精工
2		竹田　真寿	一般 6	理科学機材	〃	〃	〃	日立工機(株)
3		板垣庄次郎	一般 2	光学機材	〃	〃	〃	(株)三啓
4	調整	後藤　幸一	一般 5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

エチオピアの帝国中央衛生研究所、ケニアのナクール病院、エンブ病院、ケニヤッタ病院、ガーナのガーナ大学医学部を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和46年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和47年9月、医72－9－84

7. 特記事項

昭　和　４７　年　度

基　礎　調　査

実　施　調　査

計画打合せ調査

機　材　修　理　班

昭和４７年度－１

1. 調査団名　　フィリピン医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン

3. 調査団の構成

氏名		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	安羅岡一男	医１	総括・寄生虫	47 8.5	8.24	20	国立予防衛生研究所
2	団員	田中　寛	医２	寄生虫	〃	〃	〃	東京大学医科学研究所　助教授
3	〃	小野英美子	一般4	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

フィリピン政府が新規事業として要請している住血吸虫症対策に応え、蔓延状況を調査し、我が国からの医療協力の可能性を探る。

5. 結論・勧告

レイテ及びパロの住血吸虫症研究パイロット計画（ＳＣＰＰ）の疫学部及び貝学部に対し協同研究を行うのが望ましい。

6. 報告書

『フィリピン住血吸虫症対策調査団報告書』

昭和４８年１年、医７２－１３（８８）

7. 特記事項

昭和47年度－2

1. 調査団名　　フィリピン家族計画協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン、家族計画

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	国井長次郎	一般1	総括・家族計画	48 2.28	3.14	15	家族計画国際協力財団 理事長
2	団員	我妻　尭	医2		〃	〃	〃	東京大学医学部助教授
3	〃	福渡　靖	医3		〃	〃	〃	厚生省母子衛生課
4	〃	後藤　幸一	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

6. 報告書

なし

7. 特記事項

昭和４７年度－３

1. 調査団名　　ビルマ医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ビルマ

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	東　　昇		総括・ウイルス学	47 7.16	7.30	15	京都大学ウイルス研究所教授
2	団員	重松　逸造		疫学	〃	〃	〃	国立公衆衛生院疫学部長
3	〃	浜島　義博		ウイルス学	〃	〃	〃	日本大学医学部教授
4	〃	三井　男也		歯科行政	〃	〃	〃	厚生省歯科衛生課
5	〃	橋浦　広志		調整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

同国におけるウイルス研究センタープロジェクトの成功に鑑み、ビルマ国政府は我が国に対し歯科部門及び医学研究所協力の要請をしてきた。これに対して、ニーズの実態調査を行い、関係者と打合せる。

5. 結論・勧告

歯科部門（歯科大学）に対する協力が望まれる。

6. 報告書

『ビルマ国医療協力基礎調査団報告書』

昭和４７年８月、医７２－７（８２）

7. 特記事項

昭和47年度−4

1. 調査団名　　ネパール医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ネパール

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	山口　誠哉	医1	総括・公衆衛生	47 11.15	12. 7	23	久留米大学医学部教授
2	団員	黒住　格	医3		〃	12. 9	25	兵庫医科大学病院
3	〃	高橋　透	医4		〃	〃	〃	厚生省防疫課
4	〃	後藤　幸一	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

眼疾患対策等の医療協力要請に対し、ニーズの実態を調査し、協力の可能な分野を発掘するプロジェクト・ファインディングを行う。

5. 結論・勧告

西部地域のポカラを中心にBasic Health Service の協力を行うのが最も望まれる。

6. 報告書

『ネパール国医療協力基礎調査団報告書』

昭和48年6月

7. 特記事項

昭和47年度－5

1. 調査団名　　ブラジル・パラグァイ医療協力基礎調査団報告書

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ブラジル

パラグァイ、ライ対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	白壁　彦夫	医特	内　科	48 1.21	2.16	27	順天堂大学教授
2	団員	橋本　脩平	〃	薬理学	〃	〃	〃	神戸女子薬科大学教授
3	〃	津田　豊和	医1	病院管理	〃	2.21	32	病院管理研究所
4	〃	吉本　静夫	医2	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課長

4. 派遣目的

ブラジル国政府からのポルトアレグレカソリック大学附属成人病研究所及びパラ州立大学地域公衆衛生センターに対する協力要請に応え、ニーズの実態調査を行う。なおパラグァイのライ対策について津田・吉本両団員により計画打合せ調査を実施する。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『ブラジル・パラグァイ医療協力基礎調査団報告書』

昭和48年6月、医73－4（94）

7. 特記事項

昭和４７年度－６

1. 調査団名　ビルマ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　ビルマ、歯科大学

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	林　郁志夫	医特	歯科補てつ	48 2.19	3.5	15	東京医科歯科大学教授
2	団員	堀川　高大	医特	口腔細菌学 歯科	〃	〃	〃	〃
3	〃	佐藤　磊宏	一般 5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

前年７月に派遣された東昇京都大学教授を団長とする医療協力基礎調査団の調査報告に基き、歯科大学に対する協力の具体的な打合せを行う。

5. 結論・勧告

教育部門に重点を置きつつ３年間の協力期間とすること等を盛り込みR/Dを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ⅱ』２０９～２１２頁参照）。

6. 報告書

『ビルマ歯科大学に対する医療協力実施調査団報告書』

昭和４８年４月、医７３－２（９２）

7. 特記事項

昭和47年度－7

1. 調査団名　　ナイジェリア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ナイジェリア、ナイジェリア大学医学部

イフェ大学医学部

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	清水　文彦	医特	総　括	47 11.25	12.11	17	東京医科歯科大学長
2	団員	豊川　行平	〃	衛　生	〃	〃	〃	東京大学医学部教授
3	〃	加納　六郎	医1	医動物	〃	〃	〃	東京医科歯科大学教授
4	〃	斉藤　信行	一般3	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第一課長

4. 派遣目的

前年度の基礎調査団報告に基き、具体的な協力内容を打合せる。

5. 結論・勧告

標記両プロジェクトともに基礎医学部門において協力を行う旨のR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』75～80頁参照）。

6. 報告書

『ナイジェリア（対イフェ大学・ナイジェリア大学）医療協力実施調査団報告書』昭和48年2月、医72－15（90）

7. 特記事項

昭和47年度－8

1. 調査団名　　ガーナ・ガーナ大学医学部実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　ガーナ・ガーナ大学医学部

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	本多　憲児	医特	総括・外科	47 6.28	7.16	18	福島県立医科大学教授
2	団員	星島啓一郎	医1	外　科	〃	〃	〃	〃
3	〃	恩谷　晃	一般6	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和43年度以来今日まで継続している標記プロジェクトについて、ガーナ国政府は本プロジェクトの拡大・発展及び熱帯医学研究所設立の要請をしてきた。この要請に応えガーナ国関係者と将来計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

第一次プロジェクトのウイルス学及び細菌学から第二次プロジェクトとして「低栄養とウイルス及びその他の寄生虫病との相関」のテーマをとり上げる旨を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』89～92頁参照）。

6. 報告書

『ガーナ国ガーナ大学医学部医療協力実施調査団報告書』

昭和48年7月、医73－1（91）

7. 特記事項

昭和４７年度－９

1. 調査団名　　韓国医療協力計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

韓国、寄生虫対策、癩対策、カソリック大学産業医学センター

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	大草　寛	医1		46 6.27	7.7	11	(財)労働科学研究所副所長
2	団員	後藤　伍郎	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部長

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

6. 報告書

なし

7.

7. 特記事項

昭和47年度－10

1. 調査団名　　フィリピン、コレラ・ポリオ対策計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン、コレラ対策

ポリオ対策

3. 調査団構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	福見　秀雄	医特	総括・公衆衛生	47 9.10	9.15	6	国立予防衛生研究所
2	団員	浅野　一雄	医2	公衆衛生	〃	9.17	8	厚生省検疫課長
3	〃	小林　秀一	一般5	調　整	〃	9.24	15	海外技術協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

今年度内に協力終了予定の標記二プロジェクトについて評価測定を行い併せて今後の協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

コレラ対策及びポリオ対策ともに二年間のフォローアップ協力が望まれる旨を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』153～154頁参照）。

6. 報告書

なし

7. 特記事項

昭和47年度－11

1. 調査団名　　ヴィェトナム、サイゴン病院計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィェトナム、サイゴン病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	小酒井　望	医特	総括・臨床検査	48 3.25	3.31	7	順天堂大学医学部附属病院長
2	団員	森安　信雄	〃	脳外科	〃	3.28	4	日本大学医学部教授
3	〃	石崎　光夫	一般5	調整	〃	3.31	7	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

現在協力実施中の標記プロジェクトについて協力期間の延長等を含め、将来計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

協力期間3年間延長等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』157～160頁参照）。

6. 報告書

なし

7. 特記事項

昭和47年度－12

1. 調査団名　　タイ国立癌センター年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　タイ、国立癌センター

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	山田　昇	一般1	総括・病院管理	47 10.29	11.12	15	国立癌センター運営部次長
2	団員	伊藤　一二	医1	外科学	〃	〃	〃	〃 病棟部長
3	〃	北川　俊夫	医2	X線	〃	〃	〃	〃 放射線診療部長

4. 派遣目的

標記プロジェクトに関し、病院建設の進行状況を調査し所要の助言を行うとともに、プロジェクトの実績評価、将来計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

R／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』55～57頁参照）。

6. 報告書

『タイ国立がんセンター年次協議調査団報告書－48、47年度』

昭和50年2月、医74－34－125

7. 特記事項

専門家派遣費による派遣である。

昭和47年度－13

1. 調査団名　　タイ薬品研究所・ウイルスセンター年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、薬品研究所

ウイルスセンター

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	深井孝之助	医特	総括・ウイルス学	47 12.5	12.19	15	大阪大学微生物病研究所教授
2	団員	海老原　進	医2	病院管理	〃	〃	〃	国立癌センター
3	〃	石崎　光夫	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

上記両プロジェクトについて年次協議を行う。

5. 結論・勧告

両プロジェクトともに専門家派遣、機材供与、研修員受入れの項目毎に年度計画を作成し、併せて2年間のフォローアップ計画等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ｉ』91～98頁参照）。

6. 報告書

なし　　参考〃Repots on the Thai Medical Plants Research Project 1971－1973〃Nov・1974

7. 特記事項

昭和４７年度－１４

1. 調査団名　　ケニア、医療協力計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　ケニア、ナクール病院、エンブ病院

　　　　　ケニヤッタ病院

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	重松　逸造	医特	総括・疫学	47 11.12	11.27	16	国立公衆衛生院 疫学部長
2	団員	原　現吉	一般 1		〃	〃	〃	文部省大学学術局
3	〃	海淵　彰	一般 5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

現在実施中の標記三プロジェクトについて評価測定を行い、将来計画を打合せる。

5. 結論・勧告

ナクール病院については終結の方向で計画を進め、エンブ病院及びケニヤッタ病院についてはフォローアップに移行させる旨を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』２５５～２５６頁参照）。

6. 報告書

『ケニア医療協力調査団調査報告書』

昭和４７年１２月、医７２－１４

7. 特記事項

昭和47年度－15

1. 調査団名　　医療機材管理技術巡回指導班（南ヴィェトナム、フィリピン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィェトナム

フィリピン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		徳田　康孝	一般 4	X　線	48 1.23	2.11	20	島津放射線サービス㈱
2		細田　貞夫	一般 5	電子機材	〃	〃	〃	三栄測器（株）
3		須藤喜与一	〃	一般機材	〃	〃	〃	（株）トミー精工
4	調整員	岡崎　俊夫	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団経理部契約第二課

4. 派遣目的

南ヴィェトナムのサイゴン病院、チョーライ病院、フィリピンの検疫局、サン・ラサロ病院、ウイルス研究センターを巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和47年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和48年9月、医73－7－97

7. 特記事項

昭和４７年度－１６

1. 調査団名　医療機材管理技術巡回指導班（タイ・ビルマ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ

ビルマ

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1		長坂　力	一般 5	X線	48 3.15	4. 6	23	東芝メディカル(株)
2		八代　正雄	〃	分析機	〃	〃	〃	日立工機(株)
3		真船　尚士	〃	一般機材	〃	〃	〃	(株)トミー精工
4	調整員	伊坂　潔	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団 経理部契約第二課

4. 派遣目的

タイの国立がんセンター、ウイルスセンター、マヒドール大学、ラマティボディ病院、ビルマの医学研究所を巡回し既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４７年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和４８年９月、医７３－７－９７

7. 特記事項

昭和４７年度－１７

1. 調査団名　　医療機材管理技術巡回指導班（アフガニスタン・ケニア）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

アフガニスタン

ケニア

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		飛田　正勝	一般 2	Ｘ　線	48 2. 7	2.27	20	日立レントゲン(株)
2		五十嵐三男人	一般 6	一般機材	〃	〃	〃	泉工医科工業(株)
3	調整員	御手洗 正弘	一般 4		〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

ケニアのケニヤッタ病院、ナクール病院、エンブ病院、アフガニスタンの国立W．A．K病院を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４７年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和４８年９月、医７３－７－９７

7. 特記事項

昭和47年度－18

1. 調査団名　　医療機材管理技術巡回指導班（ガーナ・タンザニア）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ガーナ

タンザニア

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1		村松　忠夫	一般 4	一般機材	48 3. 5	3.24	20	サクラ精機(株)
2		石川　哲夫	一般 6	電子顕微鏡	〃	〃	〃	(株)日立製作所
3	調整員	谷田　和之	一般 5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団 経理部契約第二課

4. 派遣目的

ガーナのガーナ大学医学部、及びタンザニアのダルエスサラーム大学医学部を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和47年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和48年9月、医73－7－97

7. 特記事項

昭和４７年度－１９

1. 調査団名　医療機材管理技術巡回指導班（ブラジル）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ブラジル

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		大竹　良男		分析機	48 2.16	3.2	16	日立工機（株）
2		砂田　信二		一般機材	〃	〃	〃	サクラ精機（株）
3	調整員	田中　孝			〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第一課

4. 派遣目的

ブラジルのペルナンブコ大学熱帯医学研究所に供与済の機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４７年度医療機材管理技術巡回指導班報告書』

昭和４８年９月、医７３－７－９７

7. 特記事項

昭　和　４８年　度

基礎調査

実施調査

計画打合せ調査

巡回指導班

機材修理班

昭和48年度－1

1. 調査団名　　ヴィェトナム新チョーライ病院基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　南ヴィェトナム、新チョーライ病院

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	藤井　貢夫	医1	総括・病院管理	49 3.14	3.28	15	上野原町立病院長
2	団員	津田　豊和	医特	病院管理	〃	〃	〃	厚生省病院管理研究所医療管理部長
3	〃	井上　宇市	一般特	病院建築	〃	〃	〃	早稲田大学理工学部教授
4	〃	三宅　史郎	医1	病院管理	〃	〃	〃	日本大学医学部講師
5	〃	中村　晃	一般2	〃	〃	〃	〃	〃
6	〃	吉本　静夫	医2	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課長
同行		小林						外務省経済協力局経済協力第二課
同行		吉谷						〃 技術協力第一課

4. 派遣目的

我が国からの無償協力によって建設された同病院の運営管理等の技術協力に対するヴィェトナム政府の要請について実情調査を行う。

5. 結論・勧告

技術協力の重点を運営管理に置くことが望ましい。

6. 報告書

『新チョーライ病院医療協力予備調査団報告書』

　昭和49年4月、医協資74－20－10

7. 特記事項

昭和４８年度－２

1. 調査団名　　タイ家族計画協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクター名

　　タイ、家族計画

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	石浜　淳美	医特	総括・産婦人科	49 3.20	3.31	12	栃木県小山市立病院長
2	団員	片桐　為精	〃	家族計画	〃	〃	〃	日本家族計画連盟理事
3	〃	安川　正彬	一般1	人口問題	〃	〃	〃	慶応義塾大学経済学部教授
4	〃	福渡　靖	医2	母子衛生	〃	〃	〃	厚生省児童家庭局母子衛生課
5	〃	内田　智元	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団研修事業部第一課

4. 派遣目的

タイ国政府が我が国に要望越している家族計画分野における協力について、その協力の可能性を探る。

5. 結論・勧告

家族計画普及活動における広報・教育・コミュニケーションに関して協力することが望まれる旨明らかにした。Summary of Discussionを取り極める（下記報告書３９～４０頁を参照のこと）。

6. 報告書

『フィリピン・タイ家族計画実施調査団（含タイ基礎調査団）報告書』
　昭和４９年１２月

7. 特記事項

昭和48年度－3

1. 調査団名　　アフガニスタン医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

アフガニスタン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	岩崎　龍郎	医特	総括・結核	49 3.17	3.29	13	(財)結核予防会 結核研究所長
2	団員	平山　宗宏	医1	疫　学	49 3.22	3.31	10	東京大学医学教授
3	〃	高橋　修和	医2	公衆衛生	49 3.17	〃	13	日本医科大学助教授
4	〃	大森文太郎	一般3	衛生行政	〃	〃	〃	厚生省医務局 国立療養所課
5	〃	鈴木　光	一般4	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

アフガニスタン国が我が国に要望している公衆衛生分野における医療協力の可能性を調査する。

5. 結論・勧告

マラリア対策及び結核対策に対する協力が望まれる。

6. 報告書

『アフガニスタン国医療協力基礎調査団報告書』

昭和49年5月、医74－18－108

7. 特記事項

昭和48年度－4

1. 調査団名　　タンザニア医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タンザニア

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	島尾　忠男	医特	総括・結核	49 1.12	2.1	21	(財)結核予防会 結核研究所副所長
2	団員	中村　健一	医2	公衆衛生	〃	〃	〃	北里大学医学部助教授
3	〃	加藤　智一	〃	環境衛生	〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局 精神衛生課
4	〃	溝淵　彰	一般 5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

タンザニア国政府の要望する結核及び公衆衛生分野に対する協力の可能性を探り、関係者と打合せを行う。

6. 結論・勧告

結核に対する協力が最も適切な分野と思われるが、具体的な方法としては1）予防接種、2）患者発見、3）治療の他に人員養成を計るためデモンストレーション＆トレーニングセンターを作ることが必要になろう。

6. 報告書

『タンザニア国医療協力基礎調査団報告書』

昭和49年2月

7. 特記事項

昭和４８年度－５

1. 調査団名　　ガーナ大学医学部基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ガーナ、ガーナ大学医学部

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	本多　憲児	医特	総括・外科	48 6.14	7.9	19	福島県立医科大学教授
2	団員	吉武　泰水	一般	病院建築	〃	〃	〃	東京大学工学部教授
3	〃	井上　宇市	〃	病院建築	〃	〃	〃	早稲田大学理工学部教授
4	〃	石丸　健雄	〃	病院管理	〃	〃	〃	厚生省病院管理研究所建設部長
5	〃	鈴木　晃	一般 4	調整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

現在協力実施中の上記プロジェクトの第２段階の中心テーマとなる「感染症と栄養学」に関し今後の協力計画を打合せる。またガーナ国政府が要望している総合医学研究所設立（含建物供与）についても実情調査を行う。

5. 結論・勧告

基礎医学に重点を置いた総合研究所設立に対する協力が切に望まれる。

6. 報告書

『ガーナ大学医学部基礎調査団報告書』

昭和４８年８月、医７３－５（９５）

7. 特記事項

昭和48年度－6

1. 調査団名　　ネパール医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ネパール、西部地域公衆衛生対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	多ケ谷　勇	医特	総括・ウイルス学	48 10.12	11.1	21	国立予防衛生研究所腸内ウイルス部長
2	団員	山口　誠哉	医1	公衆衛生	〃	10.27	〃	久留米大学医学部教授
3	〃	松田　美泰	医3	〃	〃	11.1	〃	岐阜県衛生部環境衛生課長
4	〃	藤田　広巳	一般6	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和47年11月に派遣された山口誠哉久留米大学教授を団長とする基礎調査団の調査報告に基き、Basic Health Service について協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

ガンダキ、ルンビニ、ダウラギリ地区から成る西部地域の公衆衛生サービスの向上計画に5ケ年の期間を以って協力する等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』65～66頁参照）。

6. 報告書

『ネパール王国医療協力実施調査団報告書』

昭和49年3月

7. 特記事項

昭和48年度－7

1. 調査団名　　コスタリカ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

コスタリカ、コスタリカ大学医学部

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	深井孝之助	医特	総括・ウイルス学	48 10.27	11.14	19	大阪大学微生物病研究所教授
2	団員	山田　彪史	医3	公衆衛生	〃	〃	〃	群馬中央総合病院医師
3	〃	隅田　栄亮	一般5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課
同行		樋口　宏						外務省経済協力局技術協力第二課

4. 派遣目的

コスタリカ政府が我が国に対して要望してきた電子顕微鏡の供与及びこれに関しての基礎医学分野に対する医療協力について協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

電子顕微鏡を利用した基礎医学教育及び生医学研究に重点を置き3年間の協力期間を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』101～103頁参照）。

6. 報告書

『コスタリカ共和国医療協力実施調査団報告書』

昭和49年2月、医73－10－100

7. 特記事項

昭和４８年度－８

1. 調査団名　　ブラジル医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクター名

ブラジル、ポルトアレグレ市リオグランデドスール

カトリック大学成人病研究所

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	外山　敏夫	医特	総括・公衆衛生	48 11.24	12.14	21	慶応義塾大学医学部長
2	団員	中村　治雄	医２	循環器系学	〃	〃	〃	〃　講師
3	〃	熊谷　義也	〃	消化器系学	〃	〃	〃	〃　副学部長
4	〃	水田加代子	一般4	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課
同行		緒村　義則						外務省経済協力局技術協力第二課

4. 派遣目的

昭和４８年度の白壁順天堂大学教授を団長とする基礎調査団の報告に基き、検討した結果ポルトアレグレ市のリオグランデドスールカトリック大学成人病研究所に対して協力を行うことが決定し、協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

協力期間を３年間、協力分野を循環器系学及び消化器系学とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』１０７～１０８頁参照）。

6. 報告書

『ブラジル国ポルトアレグレ市リオグランデドスールカトリック大学成人病研究所に対する医療協力実施調査報告書』

昭和４９年２月、医７３－１２－１０２

7. 特記事項

昭和４８年度－９

1. 調査団名　　韓国カソリック医科大学年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　韓国、カソリック医科大学産業医学センター

　　　　寄生虫対策

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	斉藤　一	医特	総括・産業災害	48 10. 1	10.15	15	労働科学研究所長
2	団員	西田　弘	医１	寄生虫	〃	〃	〃	愛媛県久万保健所長
3	〃	菅野　義宏	医２	産業災害	〃	〃	〃	労働省労働基準局
4	〃	岸野　洋子	一般4	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

現在協力実施中のカソリック医科大学産業医学センタープロジェクトの協力評価及び将来計画についての打合せを行う。なお、寄生虫対策についてエバリュエーション調査を併せて行う。

5. 結論・勧告

協力期間の３年間延長等を盛り込みＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ⅱ』１２９～１３０頁参照）。

6. 報告書

『韓国カソリック医科大学産業医学センター等１９７３年年次協議報告書』

　　昭和４９年７月、医７４－２２－１１２

7. 特記事項

昭和４８年度－１０

1. 調査団名　　タイ国立癌センター年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、国立癌センター

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	林　弘	医1	総括・病院管理	49 2.18	2.27	10	国立癌センター運営部長
2	団員	伊藤一二	〃	外科	〃	〃	〃	〃 病棟部長
3	〃	北川俊夫	〃	X線	〃	〃	〃	〃 放射線治療部長
4	〃	小山靖夫	〃	外科	49 1.19	2.28	$1\frac{10}{30}$	〃 医師
5	〃	石崎光夫	一般4	調整	49 2.18	2.27	10	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

本プロジェクトに関する協力は５０年度を以って終了する予定であるが病院建設工事が遅れ、当初の計画を変更する必要が生じている、このような事情に鑑み、協力期間の延長等を含め将来計画を打合せる。

5. 結論・勧告

協力期間を２年間延長すること等を盛り込みR／Dを取り極める

（『R／D集Ⅱ』５９～６２頁参照）

6. 報告書

『タイ国立癌センター年次協議調査団報告書－４８.４７年度』

昭和５０年２月　医－７４－３４－１２５

7. 特記事項

昭和48年度－11

1. 調査団名　　エチオピア医療協力計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

エチオピア、帝国中央衛生研究所

天然痘対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	勝沼　晴雄	医特	総括・公衆衛生	48 10.20	11.5	17	東京大学医学部教授
2	団員	田中　　昇	〃	病理学	〃	〃	〃	千葉県がんセンター研究所長
3	〃	小野寺伸夫	医2	公衆衛生	〃	〃	〃	厚生省医務局総務課
4	〃	御手洗范弘	一般3	調　　整	48 10.25	11.8	15	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

上記の二プロジェクトについて協力評価を行うとともに今後の協力計画を打合せる

5. 結論・勧告

帝国中央衛生研究所プロジェクトの継続の及び天然痘対策プロジェクトに対するボランティアの派遣の必要性を銘記しR／Dを取り極める

（『R／D集Ⅰ』229～232頁参照）。

6. 報告書

『エチオピア医療協力計画打合せ調査団報告書－第一編』

昭和48年12月、医73－8－98

7. 特記事項

昭和４８年度－１２

1. 調査団名　　巡回指導班（タイ・インド・スリランカ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ、インド、スリランカ

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	宮村　定男	医特	総括・細菌学	49 1.17	2.5	20	新潟大学医学部長
2	団員	武谷　健二	〃	細菌学	〃	〃	〃	九州大学医学部教授
3	〃	小野　龍郎	一般5	厚生行政	〃	〃	〃	厚生省薬務局薬事課
4	〃	橋浦　広志	一般3	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

ウイルス学及び電子顕微鏡学のプロジェクトに焦点を据えタイ・ウイルスセンター、インド・救癩センター、スリランカ・スリランカ大学医学部を巡回し、在任中の日本人専門家及びカウンターパートに対しアドバイスを行い、プロジェクトの効率を図る。なお本件は本年度からの新規事業である。

5. 結論・勧告

電子顕微鏡の利用状況について言えばインドのＪＡＬＭＡセンターでは緒についたところであり、タイのウイルスセンターでは自立の体制にあり、スリランカでは研究者によってフルに活用されている。今後は医療協力の目的に応じてどのような段階で電子顕微鏡の供与を行うべきか、また状況に応じて小型にするか大型にするかなど充分な事前調査を行った上決定することが望ましい。

6. 報告書

『巡回指導班（タイ・インド・スリランカ）調査報告書』

昭和４９年２月、医７３－１１－１０１

7. 特記事項

昭和48年度－13

1. 調査団名　　医療機材巡回修理班（ヴィェトナム、インドネシア、フィリピン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィェトナム、インドネシア、フィリピン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1		木村　　修	一般 6	一般機材	48 12. 2	12.22	21	トミー精工（株）
2		阿南　大雄	一般 5	分析器機	〃	〃	〃	（株）日立製作所
3		谷口美智雄	一般 2	X　線	〃	〃	〃	東京島津 放射線サービス
4		林　　定男	一般 5	電子器機	〃	〃	〃	三栄測器（株）
5	調整員	佐伯　　修	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団 経理部財務課

4. 派遣目的

南ヴィェトナムのサイゴン病院、チョーライ病院、インドネシアのバーサハバダン病院、インドネシア大学医学部中央病院、西ジャワ中央総合病院、フィリピンのサン・ラザロ病院、ワクチン研究所等を巡回し、既供与医機材材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和48年度医療機材巡回修理班報告書』

昭和49年3月、医73－9－99

7. 特記事項

昭和４８年度－１４

1. 調査団名　　医療機材巡回修理班（スリランカ・タイ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

スリランカ

タイ

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1		佐藤　武尉	一般2	一般機材	48 11.24	12.13	20	サクラ精機(株)
2		小野進三郎	一般5	X　線	〃	〃	〃	日立メディコ(株)
3		佐藤　和雄	一般6	電子装置	〃	〃	〃	(株)日立製作所
4		梶山　一美	一般4	分析装置	〃	〃	〃	〃
5		北野　幸男	一般6	電子顕微鏡	〃	〃	〃	〃
6		大峡　勝	一般5	分離用器械	〃	〃	〃	日立工機(株)
7	調整員	大川　彩也	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

スリランカの中央総合病院、薬品検査試験所、タイのウイルスセンター、国立がんセンター及びラマティボディ病院を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４８年度医療機材巡回修理班報告書』

昭和４９年３月、医７３－９－９９

7. 特記事項

昭和48年度－15

1. 調査団名　　医療機材巡回修理班（インド・アフガニスタン・イラン・ケニヤ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インド・アフガニスタン・イラン・ケニヤ

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		武田　世三	一般5	電子器機	48 11.29	12.22	24	三栄測器（株）
2		西本　勝	〃	X　線	〃	〃	〃	東芝メディカル（株）
3		不宮　英則	〃	一般機材	〃	〃	〃	サクラ精機（株）
4	調整員	佐藤　竜宏	〃		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

インドの救癩センター、アフガニスタンの国立W・A・K病院、イランのテヘラン大学産業衛生学部、同大学校医学医学センター、フイルズガール病院、ケニヤのケニヤッタ病院、ナクール病院を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和48年度医療機材巡回修理班報告書』

昭和49年3月、医73－9－99

7. 特記事項

昭和４８年度－１６

1. 調査団名　　医療機材巡回修理班（エチオピア、ガーナ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　エチオピア、ガーナ

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		貫井　繁雄	一般3	顕　微　鏡	49 1.26	2.14	20	高田器機（株）
2		井沢　昌光	一般4	一般機材	〃	〃	〃	トミー精工（株）
3		和田　光弘	一般6	電子顕微鏡	〃	〃	〃	日製産業（株）
4	調整員	吉崎　史明	一般5		〃	〃	〃	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

エチオピアの帝国中央衛生研究所及びガーナのガーナ大学医学部を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４８年度医療機材巡回修理班報告書』

昭和４９年３月、医７３－９－９９

7. 特記事項

昭　和４９年　度

基　礎　調　査

実　施　調　査

計画打合せ調査

巡　回　指　導　班

エバリユエーション調査

機　材　修　理　班

昭和49年度－1

1. 調査団名．　タイ医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タイ

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	黒子　武道	医1	総括・公衆衛生	49 11.25	12.18	24	都立神経科学総合研究所疫学部長
2	団員	林　滋生	医1	寄生虫	〃	〃	〃	横浜市立大学医学部教授
3	〃	伊田八州男	医2	衛生行政	〃	〃	〃	宮城県築館保健所長
4	〃	福永　利彦	医3	ウイルス学	〃	〃	〃	大阪大学微生物病研究所
5	〃	吉本　静夫	医2	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課長

4. 派遣目的

タイ国政府が我が国に要望している九件あまりの新規要請案件等について実情調査を実施し、協力可能なプロジェクトの発掘を行う。

5. 結論・勧告

地域保健計画に対する協力が重要であるが、資金協力（不動産供与等）的色彩が強いので、技術協力としては計画の一環を担う保健センターの検査機能強化が望ましい。

6. 報告書

『タイ国医療協力基礎調査団報告書』

昭和50年2月、医74－32－1221

7. 特記事項

昭和４９年度－２

1. 調査団名　　インドネシア医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インドネシア

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	多ケ谷　勇	医特	総括・ウイルス学	49 9.18	10.3	16	国立予防衛生研究所腸内ウイルス部長
2	団員	村田良良介	〃	細菌学	〃	〃	〃	〃 細菌第二部長
3	〃	熊谷富士夫	医3	公衆衛生行政	〃	〃	〃	厚生省薬務局生物製剤課長
4	〃	御手洗章弘	一般4	調整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

１９７４年（昭和４９年）から開始する第二次５ケ年計画の一環としてインドネシア政府は我が国に対し、医療保健部門で１０数件の新規案件について技術協力を要請してきた。これに応え、ウイルス細菌部門を中心に協力の可能性を調査する。

5. 結論・勧告

中央公衆衛生研究所のワクチン検定部門及びウイルス部門に対する協力、また〃Bio Farma〃に対する機材供与が望まれる。

6. 報告書

『インドネシア医療協力基礎調査団調査報告書』

昭和４９年１２月、医７４－２６－１１６

7. 特記事項

昭和49年度--3

1. 調査団名　　バングラデシュ医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　バングラデシュ

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	小林　和正	一般1	総括・家族計画	49 11.14	12. 4	21	厚生省人口問題研究所　人口資質部長
2	団員	飯塚　理八	医1	産婦人科	〃	11.26	13	慶応大学医学部教授
3	〃	吉田　茂芳	一般2	家族計画	〃	〃	〃	財家族計画国際協力財団事業部長
4	〃	長田　満江	一般3	経済事情	〃	12. 4	21	アジア経済研究所動向分析部研究員
5	〃	橋浦　広志	〃	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

昭和48年6月のバングラデシュ政府からの家族計画協力要請に応え、その問題の重要性に鑑み、我が方の協力の可能性を探ぐるための実状調査を行う。

5. 結論・勧告

我が国からのバングラデシュに対する協力は農業開発と人口計画が二本柱となって行なわれる必要があり、その一翼を担う家族計画分野での協力は重要である。

6. 報告書

『バングラデシュ医療協力基礎調査団報告書』

昭和50年2月、医74-37-127、　参考『バングラデシュ人民共和国保健家族計画省1972年度(7月～6月)の活動概要』昭和50年2月、

7. 特記事項

昭和４９年度－４

1. 調査団名　　グァテマラ医療協力基礎調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

グァテマラ

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	中島　章	医特	総括・眼科学	50 3. 6	3.26	21	順天堂大学教授
2	団員	緒方　一喜	一般2	環境生物学	〃	〃	〃	(財)日本環境衛生センター環境生物学部長
3	〃	多田　功	医2	医動物学	〃	〃	〃	金沢医科大学教授
4	〃	溝渕　彰	一般4	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和４８年１１月の大学教授の公開手術等派遣の一環として本調査団員の一人である多田教授が派遣され、同国のオンコセルカ症対策の現状の調査活動を行ったが、グァテマラ国政府は本対策に対する本格的協力を我が国に要請してきた。これに応え、協力の可能性を探るための調査、打合せを行う。

5. 結論・勧告

パイロットエアリアの設定とその域内におけるヴェクター・コントロールのための研究と応用、全国キャンペーンのための要員養成等の部門で協力することが望ましい。

6. 報告書

『グァテマラ共和国医療協力基礎調査団調査報告書』

昭和５０年６月、医７４－３９－１２９

7. 特記事項

昭和４９年度－５

1. 調査団名　　ヴィェトナム医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　南ヴィェトナム、新チョーライ病院

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	竹内　正	医特	総括・病理学	50 2.23	3.1	7	日本大学医学部教授
2	団員	山本　亨	医1	病院管理	〃	〃	〃	〃
3	〃	後藤　伍郎	医1	医療協力	〃	3.4	10	国際協力事業団医療協力部長
4	〃	曳地　和博	一般5	研修員受入	〃	〃	〃	〃 研修事業部第一課
5	〃	橋本　明彦	一般4	調整	〃	〃	〃	〃 医療協力部第二課
同行		田中　良人						外務省経済協力局経済協力第二課
〃		田中　信明						〃 技術協力第二課

4. 派遣目的

　昭和４９年３月の基礎調査団の調査報告に基き、病院管理運営及び医療分野の技術協力について計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

　病院の中央管理システム、治療部門及び臨床部門に対する協力をアウトラインに協力期間を３年間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』１５～２５頁を参照）。

6. 報告書

　『ヴィェトナム共和国チョーライ病院医療協力実施調査団報告書』

　　昭和５０年１０月、医７５－５－１３４

7. 特記事項

昭和４９年度－６

1. 調査団名　　フィリピン・タイ家族計画実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン、家族計画

タイ、　　家族計画

3. 調査団の構成

応		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	片桐　為精	一般特	総括・家族計画	49 7. 8	7.26	19	(社)日本家族計画連盟理事.
2	団員	斉田慶四郎	一般1	〃	〃	7.18	11	(財)家族計画国際協力財団理事
3	〃	金森　仁作	医3	母子衛生	〃	〃	〃	厚生省児童家庭局母子衛生課
4	〃	谷田　和之	一般5	調　整	〃	7.26	19	海外技術協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

前年（昭和４８年）度に派遣された基礎調査団の調査報告に基き、協力の実施に必要な計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

両プロジェクトともに、啓蒙・教育の普及活動に重点を置き５年間を協力期間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（フィリピンについては『R／D集Ⅱ』３２１～３３０頁、タイについては同３３３～３３７頁をそれぞれ参照せよ）。

6. 報告書

『フィリピン・タイ家族計画実施調査団（含タイ基礎調査団）報告書』

昭和４９年１２月

7. 特記事項

昭和49年度－7

1. 調査団名　　インドネシア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア、中央生物学医学研究所

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	村田　良介	医特	総括・細菌学	50 2.28	3.15	16	国立予防衛生研究所細菌第二部長
2	団員	北原　典寛	医2	ウイルス学	〃	〃	〃	〃 腸内ウイルス部
3	〃	中川　雅郎	一般2	獣疫学	〃	〃	〃	〃 獣疫部
4	〃	伊藤　明治	一般3	細菌学	〃	〃	〃	〃 細菌第二部
5	〃	藤田　広巳	一般5	調整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和49年9月に派遣された基礎調査団の調査結果に基き、我が方としては、インドネシア国内の生物製剤管理強化及びウイルス研究活動の強化に対する医療協力を実施する方針を固め協力の基地となる中央生物学医学研究所その他の関係者と協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

同研究所における生物製剤コントロール、及び〃Bio・Farma〃における診断ウイルス学部門における協力をアウトラインに協力期間を5年間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』295～303頁参照）。

6. 報告書

『インドネシア医療協力実施調査団調査報告書』

昭和50年6月

7. 特記事項

昭和４９年度－８

1. 調査団名　　アフガニスタン医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

アフガニスタン、マラリア対策

結核対策

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	岩崎　龍郎	医特	総括・結核	49 11. 2	11.16	15	(財)結核予防会 結核研究所長
2	団員	東　義国	医特	結核	〃	〃	〃	〃 研修部長
3	〃	天羽　道男	医3	肺外科	〃	〃	〃	厚生省医務局 国立療養所課
4	〃	溝淵　彰	一般 5	調整	〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和４９年３月に派遣された基礎調査団の調査結果に基き、マラリア対策、結核対策について協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

マラリア対策については２年間、結核対策については５年間の協力期間を盛り込みＲ／Ｄを取り極める（『Ｒ／Ｄ集Ⅱ』６９～７２頁を参照）。

6. 報告書

『アフガニスタン国医療協力実施調査団報告書』

昭和４９年１１月、医７４－２４－１１４

7. 特記事項

昭和49年度－9

1. 調査団名　　タンザニア医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

タンザニア、結核対策

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	島尾　忠男	医特	総括・結核	49 11.26	12.13	18	(財)結核予防会 結核研究所副所長
2	団員	小野寺伸夫	医2	公衆衛生	〃	12.20	25	厚生省医務局総務課
3	〃	高宮　春男	一般4	臨床検査	〃	12.13	18	北里大学病院
4	〃	鈴木　晃	〃	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和49年1月に派遣された基礎調査団の調査結果に基き、結核対策について協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

パイロット・エアリアの設定及びデモンストレーション・トレーニングセンターにおける要員養成等に重点を置き協力期間を5年間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』95～97頁を参照）。

6. 報告書

『タンザニア国医療協力実施調査団報告書』

昭和50年1月、医74－31－121

7. 特記事項

昭和４９年度－１０

1. 調査団名　韓国カソリック医学大学産業医学センター年次協議調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

韓国、カソリック医科大学産業医学センター

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	斉藤　一	医特	総括・産業災害	49 8.1	8.15	15	(財)労働科学研究所長
2	団員	速水　決	〃	食品・栄養	〃	〃	〃	実践女子医大主任教授
3	〃	安西　定	一般1	〃	〃	〃	〃	厚生省大臣官房統計情報部衛生統計課長
4	〃	木村　菊二	一般2	労働衛生工学	〃	〃	〃	(財)労働科学研究所主任研究員
5	〃	隅田　栄晃	一般5	調整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

前年度の年次協議調査団により３ヶ年の協力延長が取り極められた同プロジェクトについて、今年度の協力計画を具体的に打合せる。なお、新規案件の中央大学校臨床栄養研究センターについて実情調査を行う。

5. 結論・勧告

中央大学校臨床栄養研究センターに対する協力が望まれる。

6. 報告書

『韓国カソリック医科大学産業医学センター等１９７４年年次協議報告書』
昭和４９年１２月、医７４－３８－１２８

7. 特記事項

昭和49年度－11

1. 調査団名　ナイジェリア医療協力計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ナイジェリア、ナイジェリア大学医学部

イフェ大学医学部

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	清水　文彦	医特	総　括	49 6.22	7.6	15	東京医科歯科大学長
2	団員	豊川　行平	〃	衛生学	〃	〃	〃	元東京大学医学部長
3	〃	吉崎　史明	一般 5	調　整	〃	〃	〃	海外技術協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

協力が2年目を迎えた上記両プロジェクトについて、その進捗状況を調査し、当面の問題となっている機材送付について協議するとともに将来計画を打合せる。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『ナイジェリア国基礎医学教育協力計画打合せ調査団報告書』

昭和49年7月、医74－27－117

7. 特記事項

昭和49年度－12

1. 調査団名　　巡回指導班（インドネシア・ヴィェトナム・フィリピン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

インドネシア、南ヴィェトナム、フィリピン

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	武谷　健二	医特	総括・微生物学	49 11.12	11.30	19	九州大学医学部教授
2	団員	田村　潤	医1	病理学	〃	〃	〃	国立名古屋病院研究検査課長
3	〃	猪狩　淳	医3	臨床検査	〃	〃	〃	順天堂大学医学部講師
4	〃	石崎　光夫	一般4	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団経済部契約第三課

4. 派遣目的

臨床検査部門を内容とする医療協力プロジェクトのうち東南アジア地域のフィリピンのコレラ、ポリオ対策、南ヴィェトナムのサイゴン病院、インドネシアのジャカルタ中央病院の三プロジェクトを巡回し、派遣専門家並びにカウンタ・パートに対するブラッシュアップ等を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『臨床検査関係プロジェクト巡回指導班報告書－インドネシア、ベトナム、フィリピン』　昭和49年12月、医74－26－115

7. 特記事項

昭和４９年度－１３

1. 調査団名　　フィリピン住血吸虫症研究エバリュエーション調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン、住血吸虫症研究

3. 調査団の構成

No	・	氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	横川　宗雄	医特	総括・寄生虫	49 10.18	10.26	9	千葉大学医学部長
2	団員	安羅岡一男	医１	寄生虫	〃	11. 1	15	筑波大学医学系教授
3	〃	佐々木郁華	一般2	公衆衛生	〃	〃	〃	厚生省環境衛生局企画課
4	〃	隅田　栄亮	一般5	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

１９７４年（昭和４９年度）で協力が終了する予定の標記プロジェクトについて過去の協力評価を行うとともに、今後の方針決定に資するための調査を行う。

5. 結論・勧告

協力の延長が必要である。

6. 報告書

『フィリピン住血吸虫症研究対策エバリュエーション調査団報告書』

昭和４９年１２月、医７４－３３－１２３

7. 特記事項

昭和４９年度－１４

1. 調査団名　　ラオス、タゴン医療センターエバリュエーション調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ラオス、タゴン医療センター

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	加納　保之	医特	総括・内科	49 10.10	10.24	15	国立霞ケ浦病院長
2	団員	山本　利雄	医１	内　科	〃	〃	〃	天理よろず相談所病院長
3	〃	沢田　猛	一般6	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

今年度を以って協力が終了する標記プロジェクトについての協力評価を行い、今後の方針決定に資するとともに併せて新規プロジェクトの発掘調査を行う。

5. 結論・勧告

新規プロジェクトとして、(1)バンスアンモン保健センター、(2)ウイルス学研究及び(3)血液銀行整備計画の３件のなかから検討することが望まれる。

6. 報告書

『ラオスタゴン保健センター派遣専門家関係報告書』

昭和５０年１月、医７４－３０－１２０

7. 特記事項

昭和49年度－15

1. 調査団名　　ケニア医療協力エバリュエーション調査団報告書

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア、ナクール病院

ケニヤッタ病院（ICU）

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	本多　憲児	医特	総括・外科	50 2. 6	2.21	16	福島県立医科大学教授
2	団員	芦沢　正見	医1	疫　学	2.13	〃	9	国立公衆衛生院疫学部
3	〃	斉藤　信行	一般2	調　整	2. 6	2.21	16	国際協力事業団 医療協力部第一課長

4. 派遣目的

上記の二プロジェクトにつき、過去の協力評価を行うとともに今後のわが国の協力方針決定に資するための調査、打合せを行う。

5. 結論・勧告

ケニヤッタ病院についてはフォローアップが必要、ナクール病院については第一段階は終了したと考える。

6. 報告書

『ケニア医療協力エバリュエーション調査団調査報告書』

昭和50年5月、医75－3－132

7. 特記事項

昭和４９年度－１６

1. 調査団名　　医療機材修理班（南ヴィェトナム・ラオス・フィリピン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

南ヴィェトナム、ラオス、フィリピン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		宇田川喜淑	一般 5	一般機材	49 9.25	10.18	24	サクラ精機（株）
2		麻植　弘次	一般 5	X　線	49 10. 2	10.10	9	東芝メディカル㈱
3		一ノ木元治	一般 4	〃	49 9.25	10.15	21	㈱島津製作所
4	調整員	佐藤　保雄	一般 5		〃	10.18	24	国際協力事業団 医療協力部第一課

4. 派遣目的

南ヴィェトナムのチョーライ病院、サイゴン病院、ラオスのタゴン医療センター、フィリピンのサンラサロ病院、公衆衛生試験所を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４９年度医療機材修理班報告書』

昭和５０年３月、医７５－４－１３３

7. 特記事項

昭和４９年度－１７

1. 調査団名　　医療機材修理班（スリランカ・ビルマ・タイ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

スリランカ、ビルマ、タイ

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		余語　正宏	一般 6	核医学機材	49 10. 8	11. 5	29	㈱島津製作所
2		北野　幸男	〃	電子顕微鏡	〃	〃	〃	㈱日立製作所
3		麻植　弘次	一般 5	X　線	〃	11.10	34	東芝メディカル㈱
4		田中　稔	一般 5	分析機器	〃	11. 5	29	㈱日立製作所
5		会沢　剛毅	一般 6	〃	〃	〃	〃	〃
6		荻谷　寿一	一般 5	一般機材	〃	〃	〃	㈱トミー精工
7	調整員	小林　秀一	〃		〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第一課

4. 派遣目的

タイのラマティボディ医科大学、薬品研究所、ウイルスセンター、がんセンター、ビルマの国立歯科大学、ビルマ医学研究所、スリランカの薬品検査試験所を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和４９年度医療機材修理班報告書』

昭和５０年３月、医７５－４－１３３

7.

麻植弘次団員は南ヴィェトナム・ラオス・フィリピン班の業務終了後参加した。

昭和49年度－18

1. 調査団名　医療機材修理班（ケニア・ナイジェリア・イラン・アフガニスタン）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア、ナイジェリア、イラン、アフガニスタン

3. 調査団の構成

No		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		西信　昌三	一般 6	X　線	50 3. 1	3.29	29	㈱日立メディコ
2		内田　忠夫	一般 5	一般機材	〃	〃	〃	サクラ精機㈱
3		国安　才治	一般 6	〃	〃	〃	〃	泉工医科工業㈱
4	調整員	吉崎　史明	一般 5		〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

ケニアのケニヤッタ病院及びナクール病院、ナイジェリアのナイジェリア大学医学部、イフェ大学医学部、アフガニスタンの国立W・A・K病院及びイランのテヘラン大学を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

『昭和49年度医療機材修理班報告書』

昭和50年3月、医75－4－133

7. 特記事項

昭　和５０年　度

前 調 査

実 施 調 査

計画打合せ調査

巡 回 指 導 班

エバリユエーション調査

機 材 修 理 班

昭和５０年度ー１

1. 調査団名　　イラン医療協力事前調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

イラン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	竹内　正	医特	総括・病理学	50 12.25	51 1.12	19	日本大学医学部教授
2	団員	黒子　武道	〃	公衆衛生	〃	〃	〃	都神経科学研究所疫学研究部長
3	〃	吉田　幸雄	医1	寄生虫	〃	〃	〃	京都医科大学教授
4	〃	大沢　一郎	医2	衛生行政	〃	〃	〃	厚生省大臣官房国際課
5	〃	吉崎　史郎	一般4	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

〃

4. 派遣目的

イラン国が要請していた寄生虫対策等の医療協力について、協力の可能性を調査する。

5. 結論・勧告

石油工業を中心とする急速な工業化に対処するため、テヘラン大学公衆衛生学部保健学講座の新設に対する従来の医療協力を発展させ、「工業化に伴う生活環境の改善」のテーマの下に協力することが望ましい。

6. 報告書

『イラン医療協力事前調査団報告書』

昭和５１年３月、医７５－００

7. 特記事項

昭和５０年度－２

1. 調査団名　　エジプト医療協力事前調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　エジプト

3. 調査団の構成

№.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1	団長	重松　逸造	医特	総括・疫学	51 2. 8	2.25	18	国立公衆衛生院疫学部長
2	団員	加藤　孝之	医1	公衆衛生	〃	〃	〃	金沢医科大学教授
3	〃	近藤　潤子	医2	看護学	〃	〃	〃	聖路加看護大学教授
4	〃	桂本　富子	一般3	衛生行政	〃	〃	〃	文部省医学教育課
5	〃	斉藤　信行	一般2	調整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第一課長

4. 派遣目的

　昭和４９年９月に外務省の招聘により来日したカイロ大学副学長は看護教育に対する医療協力を要請したが、検討の結果事前調査団を派遣し、医療協力の可能性を調査することになり、これに基づきプロジェクトファインディングを行う。

5. 結論・勧告

　エジプトは医療保健サービスの組織と関係要員の教育が進んでおり、従来の我が国の医療協力方式（プロジェクトベースの協力）は必らずしも適しているとは言い難い。高級研修員の受入れ、特殊機材の供与、高級専門家の派遣を通じて理解を深めプロジェクト方式に発展させることが望ましい。

6. 報告書

　未刊

7. 特記事項

昭和50年度－3

1. 調査団名　　エクアドル・チリ医療協力事前調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

エクアドル

チ　リ

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	高部　道男	医特	総括・衛生行政	51 3.28	4.21	25	(財)放射線影響研究所理事
2	団員	中村　恭一	医2	病理学	〃	〃	〃	筑波大学基礎医学系教授
3	〃	山村　忠彦	〃	公衆衛生	〃	〃	〃	聖マリアンナ医科大学助教授
4	〃	小畑美知夫	〃	衛生行政	〃	〃	〃	福島県環境衛生課長
5	〃	鈴木　晃	一般3	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

エクアドル国からの熱帯病研究所に対する研究協力要請及びチリ国からの胃癌集団検診計画に対する協力要請に応え、我が国からの医療協力の可能性を探る。

5. 結論・勧告

エクアドルについてはグワヤキルの熱帯病研究所に対する協力及びチリについてはチリ大学医学部において集団検診に必要なスタッフの教育を中心に協力することが望ましい。

6. 報告書

『エクアドル・チリ医療協力事前調査団報告書』

昭和51年6月、医75－19－148

7. 特記事項

昭和50年度－4

1. 調査団名　　ボリビア・アルゼンチン医療協力事前調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ボリビア

アルゼンチン

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	多ケ谷　勇	医特	総括・ウイルス	51 3.26	4.22	28	国立予防衛生研究所腸内ウイルス部長
2	団員	安部井　徹	医1	内　科	〃	〃	〃	東邦大学医学部教授
3	〃	郡司　篤晃	医2	医療情報システム	〃	〃	〃	厚生省医務局システム開発調査室
4	〃	小野寺伸夫	医3	調　整	〃	〃		国際協力事業団医療協力部第二課長

4. 派遣目的

ボリビア国からのガン対策ならびに公衆衛生部門への協力要請及びアルゼンチン国からのガン対策に対する協力要請等に応え、我が国からの医療協力の可能性について調査を行う。

5. 結論・勧告

ボリビアについては胃腸病学センター設置に関する協力、アルゼンチンに対しては医療情報システム強化に関する協力が適当である。

6. 報告書

『ボリビア国アルゼンチン国医療協力事前調査団報告書』

昭和51年6月、医75－21（150）

7. 特記事項

昭和50年度－5

1. 調査団名　　韓国中央大学校臨床栄養研究センター実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

韓国、中央大学校臨床栄養研究センター

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1	団長	福井　忠孝	医特	総　括	50 9. 4	9.10	7	国立栄養研究所長
2	団員	田村盈之輔	〃	栄養 生化学	〃	9.12	9	国立栄養研究所 栄養生化学部長
3	〃	鈴江緑衣郎	医1	食品化学	〃	〃	〃	〃 食品化学部長
4	〃	野口　兼道	一般1	研究所 組織管理	〃	9.10	7	〃 庶　務　課
5	〃	藤沢　良知	一般2	栄養行政	〃	〃	〃	厚生省公衆衛生局 栄養課
6	〃	橋本　明彦	一般4	調　整	〃	9.12	9	国際協力事業団 医療協力部第二課
同　行		山崎　定雄						外務省経済協力局 技術協力第二課

4. 派遣目的

昭和49年8月に派遣されたカソリック大学産業医学センター年次協議調査団の調査報告に基き検討の結果、上記プロジェクトに対する医療協力を実施することになり、このための協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

栄養・食品消費の調査研究等のアウト・ラインの下に協力期間を4年間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集』』285～291頁参照)。

6. 報告書

『韓国中央大学校臨床栄養研究センター協力実施調査団報告書』

昭和51年3月、医75－15－144

7. 特記事項

昭和50年度－6

1. 調査団名　　タイ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　タイ、地域保健活動向上計画

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	深井孝之助	医特	総括・ウイルス	51 1.20	2.3	15	大阪大学微生物研究所教授
2	団員	西　三郎	医1	公衆衛生	〃	〃	〃	国立公衆衛生院衛生行政学部
3	〃	玉木　武	医2	衛生行政	〃	〃	〃	厚生省医務局国立病院課
4	〃	並川　裕之	〃	疫　学	〃	〃	〃	東京大学医学部
5	〃	谷田　和之	一般4	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和49年11月に派遣された基礎調査団の調査報告に基き、保健センターの検査機能強化を中心とする地域保健計画に対する協力計画を打合せる。

5. 結論・勧告

モデル地区を設定し中央行政部とリンクさせることによって、モデル地区内の一・二級保健所及び病院及び中央の研究機関の機能の充実を図ることを目的に、協力期間を5年間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める。

6. 報告書

　未刊

7. 特記事項

昭和５０年度－７

1. 調査団名　　バングラデシュ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

バングラデシュ、家族計画

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	石浜　淳美	医特	総括・産婦人科	51 3.15	3.31	17	栃木県小山市立病院長
2	団員	近　泰男	一般1	家族計画	〃	〃	〃	(財)日本家族計画協力理事
3	〃	長田　満江	一般3	経済事情	〃	〃	〃	アジア経済研究所動向分析部
4	〃	楠本　明彦	一般4	調　整	〃	4. 2	19	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和４９年１１月に派遣された基礎調査団の調査結果に基き、家族計画協力の実施にあたって協力計画のアウトラインを打合せる。

5. 結論・勧告

プロジェクトエアリアの設定及びモティヴェイター養成等について５年間の協力期間を以って協力を行う旨を盛り込みＲ／Ｄを取り纏める。

6. 報告書

未刊

7. 特記事項

昭和50年度－8

1. 調査団名　　グァテマラ医療協力実施調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

グァテマラ、オンコセルセ症研究対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	林　滋生	医特	総括・寄生虫	50.6.28	7.24	27	国立予防衛生研究所寄生虫部長
2	団員	多田　功	医2	医動物学	〃	7.17	20	金沢医科大学教授
3	〃	田中　生男	一般3	衛生動物	〃	7.24	27	(財)日本環境衛生センター衛生動物課長
4	〃	梅沢　賢浩	一般5	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

昭和50年3月に派遣された基礎調査団の調査報告に基き、オンコセルセ症対策に関する医療協力を実施する際の重点、行動計画等を打合せる。

5. 結論・勧告

ヴェクターコントロールの基礎研究、パイロット地域におけるコントロールの実施等をアウト・ラインに、協力期間を5年間とすること等を盛り込みR／Dを取り極める（『R／D集Ⅱ』307～313頁参照）。

6. 報告書

『グァテマラ共和国医療協力実施調査団調査報告書』

昭和50年8月、医75－7－136

7. 特記事項

昭和50年度－9

1. 調査団名　　インドネシア中央生物医学研究所計画打合せチーム

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インドネシア、中央生物医学研究所

3. 調査団の構成

No		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	村田　良介	医特	総括・細菌学	51 3.23	3.30	8	国立予防衛生研究所細菌第二部長
2	団員	北原　典寛	医1	ウイルス学	〃	〃	〃	〃
3	〃	御手洗瑛弘	一般3	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

本件プロジェクトが本格的に動き出す時点を迎えて現地のその後の一般状況・供与機材の受入れ体制等の視察並びに調査

5. 結論・勧告

6. 報告書

　なし

7. 特記事項

専門家派遣費による派遣である。

昭和５０年度－１０

1. 調査団名　　ネパール医療協力計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ネパール、西部地域公衆衛生対策

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	竹重　順夫	医特	総括・解剖学	51 1. 5	1.19	15	久留米大学医学部教授
2	団員	青木　正和	医1	疫　学	〃	〃	〃	㈶結核予防会結核研究所
3	〃	新井　博之	一般5	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課

4. 派遣目的

上記プロジェクトの拠点たるポカラにプレハブ式臨床検査棟が建設されプロジェクトの本格的始動を目前に控え、今後の協力計画の打合せを行う。

5. 結論・勧告

ネパール国が要望する２０ケ所余りのヘルスポストの設置に対する協力が特に望まれる。今後の協力の重点は結核対策に置かれる。

6. 報告書

『ネパール王国医療協力計画打合せ調査団報告書』

昭和５１年３月

7. 特記事項

昭和５０年度－１１

1. 調査団名　　ブラジル・ポルトアレグレカトリック大学成人病研究所計画打合せ調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ブラジル、ポルトアレグレカトリック大学成人病研究所

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	中村　治雄	医２	総括・内科	50 11.25	12.9	15	慶応義塾大学医学部講師
2	団員	熊谷　義也	〃	外　科	〃	〃	〃	〃　助手
3	〃	御手洗章弘	一般４	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団医療協力部第二課
同行		工藤　[illegible]一						外務省経済協力局技術協力第二課

4. 派遣目的

協力期間の半ばを迎えた上記プロジェクトについてこれまでの協力効果の測定を行うとともに、将来計画の打合せを行う、

5. 結論・勧告

専門家の住宅問題を除いて、プロジェクトは計画通り進んでおり、第２年次の機材が到着した段階で研究面の充実を図る必要がある。

6. 報告書

『ブラジルポルトアレグレカソリック大学成人病研究所計画打合せ調査団報告書』　昭和５１年２月、医７５－１３－１４２

7. 特記事項

昭和50年度－12

1. 調査団名　　巡回指導班

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ガーナ、ガーナ大学医学部

ナイジェリア、イフェ大学医学部、ナイジェリア大学医学部

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	平山　宗宏	医1	総括・母子衛生	50 11.20	12.12	23	東京大学医学部教授
2	団員	鈴木　継美	〃	公衆衛生	〃	〃	〃	東北大学医学部教授
3	〃	加野　時男	一般4	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第一課

4. 派遣目的

現在実施中のプロジェクトのうち、医学研究協力及び医学教育協力プロジェクトの上記二プロジェクトについて、派遣専門家並びにカウンターパートのブラッシュアップを行い、併せて現状における問題点を探る。

5. 結論・勧告

専門家の派遣期間が短く、機材についても現地購入の方法などが考慮される必要がある。

6. 報告書

『ガーナ・ナイジェリア医療協力巡回指導班報告書』

昭和51年2月、医75－11－140

7. 特記事項

昭和50年度－13

1. 調査団名　　インド医療協力エバリュエーション調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

　　インド、らい病研究

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	難波　政士	医特	総括・ライ病	51 2.24	3.9	15	国立多摩研究所長
2	団員	吉崎　正蔵	一般 1	ライ行政	〃	〃	〃	厚生省医務局 国立療養所課長
3	〃	熊谷　晃	一般 5	調　整	〃	〃	〃	国際協力事業団 研修事業部第一課

4. 派遣目的

昭和50年度を以って終了が予定されている上記プロジェクトについて過去の協力評価を行うとともに今後の協力方針決定に資するための調査打合せを行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

　　未刊

7. 特記事項

昭和50年度−14

1. 調査団名　パラグァイ医療協力エバリュエーション調査団

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

パラグァイ、らい病対策

3. 調査団の構成

No.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1	団長	後藤　伍郎	医1	総括・医療協力	50 10.20	11.5	17	国際協力事業団医療協力部長
2	団員	森　龍男	医1	ライ病	〃	11.3	15	大阪大学微生物病研究所助教授
3	〃	海保　誠治	一般6	調　整	〃	11.5	17	国際協力事業団医療協力部第一課

4. 派遣目的

昭和51年度を以って終了が予定されている上記プロジェクトについて過去の協力評価を行い、併せて今後の方針決定に資するための調査を行う。

5. 結論・勧告

当初のらい患者の発見治療の段階から、本プロジェクトは現在では患者の社会復帰のためのリハビリテーション及びアルマジロに対するらい菌接種によるらい研究に重点が移ってきており、とくにらい研究には長期の協力が必要と考えられる。しかしながら本プロジェクトにはR／Dの取り極めがなくこのため従来派遣専門家の任期延長という形で協力期間の延長が計られてきている。このような点を考慮し調査団は現在の専門家の任期満了を以って本件プロジェクトを終了させ、さらに拡大延長する場合にはR／D方式を再考するよう勧告している。

6. 報告書

『パラグァイ医療協力（癩対策）エバリュエーション調査団報告書』

昭和51年2月、医75−6−135

7. 特記事項

昭和５０年度－１５

1. 調査団名　　医療機材修理班（フィリピン、インドネシア）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

フィリピン

インドネシア

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		児島　弘彦	一般 6		51 3.30	4.9	11	東亜医用電子㈱
2		柿沼　健	〃		〃	4.16	18	サクラ精機㈱
3		山本　照夫	〃		〃	4.9	11	日本テクニコン㈱
4		石原　裕	〃		〃	〃	〃	兵興交易㈱
5	調整員	堀口　登	一般 5		〃	4.16	18	国際協力事業団 医療協力部第一課

4. 派遣目的

5. 結論・勧告

6. 報告書

未刊

7. 特記事項

昭和50年度－16

1. 調査団名　　医療機材修理班（ビルマ・タイ）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ビルマ

タイ

3. 調査団の構成

№.		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　　職
1		佐々木登喜夫	一般 3		51 3.31	4.14	15	日本光電工業㈱
2		浜島　美勝	一般 4		〃	〃	〃	〃
3		安　　静夫	一般 6		〃	〃	〃	日立工機㈱
4		丸山　勝彦	〃		〃	4.21	22	サクラ精機㈱
5		米田　正治	一般 5		〃	〃	〃	日本電気㈱
6	調整員	田辺　耕治	〃		〃	〃	〃	国際協力事業団 経済部契約第三課

4. 派遣目的

ビルマの国立歯科大学及び医学研究所、タイの国立癌センター、薬品研究所、ウイルス研究所、ラマティボディ医科大学を巡回し、既供与医療機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

未　刊

7. 特記事項

昭和50年度－17

1. 調査団名　　医療機材修理班（イラン・インド）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

イラン

インド

3. 調査団の構成

No.		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1		嶋崎　武志	一般 6		50 12.9	12.23	15	㈱トミー精工
2		松本　健次	一般 4		〃	12.16	8	日製産業㈱
3	調整員	小野田勝次	一般 6		〃	12.23	15	国際協力事業団 経済部契約第三課

4. 派遣目的

イランのテヘラン大学医学部及び公衆衛生学部、インドの救ライセンター（JALMA）を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

未刊

7. 特記事項

昭和50年度−18

1. 調査団名　医療機材修理班（ケニア・タンザニア）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ケニア、タンザニア

3. 調査団の構成

№		氏名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現職
1		武田　世三	一般 4		51 1.26	2.16	22	三栄測器㈱
2		岩楯　好治	一般 6		〃	〃	〃	サクラ精機㈱
3	調査員	梅沢　賢浩	一般 5		〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

ケニアのケニヤッタ病院及びナクール病院、タンザニアのダルエスサラーム大学医学部を巡回し既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

未刊

7. 特記事項

昭和５０年度－１９

1. 調査団名　　医療機材修理班（ガーナ・ナイジェリア）

2. 調査先国名及び関係プロジェクト名

ガーナ

ナイジェリア

3. 調査団の構成

№		氏　名	等級	担当業務	出発日	帰国日	日数	現　職
1		金丸　新	一般 5		51 1.11	2.4	25	日本電子(株)
2		中山　建幸	〃		〃	〃	〃	(株)トミー精工
3		川又　行雄	〃		〃	〃	〃	(株)日立製作所
4	調整員	鈴木　晃	一般 3		〃	〃	〃	国際協力事業団 医療協力部第二課

4. 派遣目的

ガーナのガーナ大学医学部、ナイジェリアのナイジェリア大学医学部及びイフェ大学大学医学部を巡回し、既供与済機材の修理・保守業務を行う。

5. 結論・勧告

6. 報告書

未刊

7. 特記事項